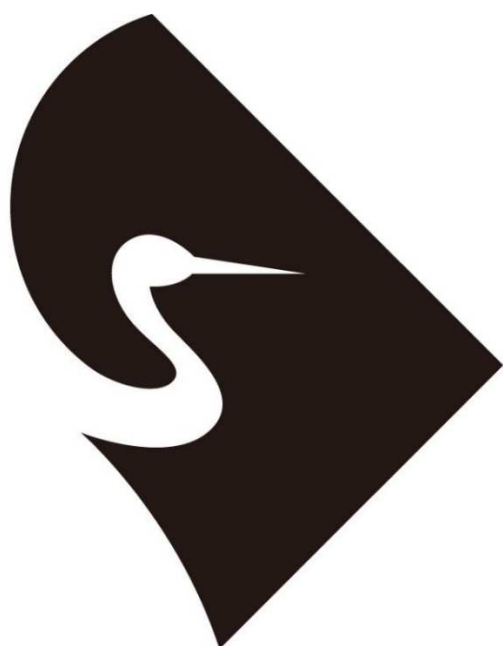


令和6年度

運営協議会報告書



鶴岡高専

National Institute of Technology(KOSEN), Tsuruoka College

令和 7 年 3 月

独立行政法人国立高等専門学校機構

鶴岡工業高等専門学校

巻 頭 言



令和7年3月10日に鶴岡高専運営協議会委員の皆様を本校に迎えて令和6年度運営協議会を開催させていただきました。

本校では、創立以来「理魂工才」と「自学自習」を校訓として多様化する社会情勢に対応できる技術者育成を目指し様々な取り組みを行っております。とりわけ、昨年度の創立60周年を機に「発想の柔軟性と創造力、主体性と豊かな国際感覚を身につけること」を10年先を見越したビジョンとして学校運営にあたっております。

また、国立高専機構が高専教育の質保証と高度化を図るために策定したモデルコアカリキュラム・ガイドラインの指針に沿い、かつ、本校の特色をまとめた3つの教育方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）にもとづいて常にPDCAサイクルを回しながら教育改善に勤めております。

令和6年度においては、教育に関しては昨年度に引き続いて（i）学生生活、（ii）国際交流、（iii）学生が主体的にうごく課題解決型教育・スタートアップ教育の充実、（iv）CO-OP教育、インターンシップなどの学生の社会経験、などについて支援と充実に注力しました。また、我が国の先端IT人材の不足に対して、成長分野をけん引する大学・高専の機能強化支援事業の令和6年度採択を受けてデジタルデザインコースを新設しました。この新設コースでは数理・データサイエンス・AI教育の充実を目指した特色あるカリキュラムを構築して令和7年度より新入生を迎えます。学生が主体となる取組みとして、NHK高専ロボコン2024に2年連続で全国大会に出場し、3年生学生グループがスタートアップ教育の一環として高校生ビジネスプラン・グランプリにおいて応募総数5151件からベスト100に選出されました。AMデザイン部学生が全国区高等専門学校デザインコンペティション2024においてプレデザコン部門最優秀賞と特別賞を受賞し、第9回廃炉創造ロボコンでは廃炉塑像ロボコンチームが高専機構理事長賞（アイディア賞）を受賞しました。

一方で、全国高専で志願者確保が課題となっている中で、令和7年度山形県公立高校入試制度が改善されたことによって、本校の志願者確保に早急な対策が必要となっております。とはいえ、本科5年生と専攻科2年生の進路については大学等に比べても順調に進んでおり、高専生への社会からの高い評価を得ております。その他、CO-OP教育、インターンシップに多数の学生が参加して実践的取組みを体験しております。海外派遣については学生60名が参加して海外の大学等で研修してきました。

業務面では、本校教職員の校務分掌の見直しによる組織充実化を実現し、PDCAサイクルを回して一層の改善に努めております。地域活性に向けた本校の取組みの一つとして、本校教員・技術職員と地域の皆様方との連携研究も多数進行しており、5年生や専攻科生の参加も含めて今後の一層の発展に期待しているところでもあります。

本運営協議会において、非常に有意義なご意見を多数いただきましたことに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

令和7年度に向けてより一層、緊張感をもって邁進してまいりたいと思っておりますので、引き続き、ご指導ならびにご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月

鶴岡工業高等専門学校 校長 太田 道也

目 次

	ページ
◆巻 頭 言	校長 太 田 道 也 1
目 次	2
I 令和6年度鶴岡工業高等専門学校運営協議会	3
1 開催概要	4
2 令和6年度運営協議会 委員名簿	5
3 本校関係者 出席者名簿	6
4 会議風景	7
5 議事要旨	10
II 資 料 編	14
運営協議会委員名簿、本校関係出席者名簿、席次表	【資料 1-1～1-3】
学校運営の概要について	【資料 2】 校長（代理：佐藤副校長）
教務関連事項について	【資料 3】 教務主事・総務主事
学生関連及び寮務関連事項について	【資料 4】 学生主事／寮務主事
財務基盤及び管理運営について	【資料 5】 事務部長
専攻科関連事項について	【資料 6】 専攻科長
研究活動・地域貢献関連事項について	【資料 7】 地域連携センター長
関係規程等	
・鶴岡工業高等専門学校運営協議会規程	【資料 8】

I 令和6年度
鶴岡工業高等専門学校 運営協議会

1 運営協議会 開催概要

日 時： 令和7年3月10日（月） 14時25分から16時40分まで

場 所： 鶴岡工業高等専門学校 1号館3階「大会議室」

次 第：

開 会	総務課長（進行）
本校出席者紹介	総務課長
運営協議会委員紹介	総務課長
校長挨拶	校長(代理;佐藤副校長)
日程説明及び配付資料の確認	総務課長
委員長（議長）選出	総務課長
委員長 挨拶	委員長
趣旨説明	総務課長

～本校からの説明～

【学校運営の概要】	校長(代理;佐藤副校長)
【教務関連事項について】	教務主事・総務主事
【学生関連及び寮務関連事項について】	学生主事／寮務主事
【財務基盤及び管理運営について】	事務部長
【専攻科関連事項について】	専攻科長
【研究活動・地域貢献関連事項について】	地域連携センター長

◇ 質疑応答 ◇

委員長まとめ	委員長
校長謝辞	校長(代理;佐藤副校長)
閉 会	
事務連絡	総務課長

2 令和6年度 運営協議会委員名簿

区分	No	職 名	フリガナ 氏 名 ※敬称略	
1号委員	1	鶴岡商工会議所 会頭	ウエ ノ マサ シ 上 野 雅 史	
	2	山形県庄内総合支庁長	ムラ ヤマ トモ ヤ 村 山 朋 也	
	3	田川地区中学校長会 (鶴岡市立朝日中学校長)	あき やま なお し 秋 山 尚 志	
2号委員	4	国立大学法人長岡技術科学大学長	カマ ド シゲ ハル 鎌 土 重 晴	
	5	慶應義塾大学先端生命科学研究所長	アラ カワ カズ ハル 荒 川 和 晴	【※欠席】
3号委員	6	鶴岡高専技術振興会 会長（鶴岡市長） 【代理】 鶴岡高専技術振興会 理事	ミナ カワ オサム 皆 川 治 ムラ カミ リョウ イチ 村 上 良 一	
	7	鶴岡工業高等専門学校峰友会 副会長	ア ベ ノブ ヒロ 阿 部 信 弘	

3 本校関係者 出席者名簿

No	職 名	氏 名
1	校 長【※欠席】	太田 道也
2	副校長（総務担当・教務担当）／教務主事・総務主事	佐藤 司
3	副校長（学生担当）／学生主事	渡部 誠二
4	副校長（寮務担当）／寮務主事	山田 充昭
5	副校長（専攻科担当）／専攻科長	穴戸 道明
6	副校長（研究・地域連携担当）／地域連携センター長	内山 潔
7	事務部長	佐藤 俊次
8	総務課長	海野 博之
9	学生課長	山川 正敏
10	総務課課長補佐（総務担当）	大山 元
11	総務課課長補佐（財務担当）	中島 栄子
12	総務課課長補佐（施設担当）【※欠席】	阿部 強士
13	総務課課長補佐（学生担当）【※欠席】	中島 直樹
14	総務課企画・連携係長	石川 良樹
15	総務課企画・連携係主任	杉原 由希

4 会議風景



● 外部委員の方々



上野 雅史 委員長



村山 朋也 委員



秋山 尚志 委員



鎌土 重晴 委員



村上 良一 委員
【※ 皆川 治 委員 代理】



阿部 信弘 委員

4 会議風景



● 本校執行部関係者



佐藤 司 副校長



渡部 誠二 副校長



山田 充昭 副校長



穴戸 道明 副校長



内山 潔 副校長



佐藤 俊次 事務部長

4 会議風景



5 議事要旨

議事に先立ち、総務課長(進行)から太田校長が急遽欠席となる旨、説明された後、学校関係者と各委員が紹介された。

次いで、太田校長の代理で、佐藤副校長から挨拶があった。

【委員長(議長)の選出】

本校運営協議会規程第4条第1項で、委員長は「委員の互選により選出」することとなっているが、事務局から上野委員を候補とする提案があり、全会一致で同委員が選出された。

引き続き、委員長に選出された上野委員から挨拶があった。

【趣旨説明】

総務課長から本協議会の趣旨について説明があった。

【学校運営の概要について説明】

太田校長の代理で佐藤副校長から、資料2に基づき学校運営の方針について説明があった。

【教務関連事項について説明】

佐藤教務主事・総務主事から、資料3に基づき教務関連事項の説明があった。

【学生関連及び寮務関連事項について説明】

渡部学生主事から、資料4に基づき学生関連事項について、山田寮務主事から、寮務関連事項について、それぞれ説明があった。

【財務基盤及び管理運営について説明】

佐藤事務部長から、資料5に基づき財務基盤及び管理運営について説明があった。

【専攻科関連事項について説明】

宍戸専攻科長から、資料6に基づき専攻科関連事項の説明があった。

【研究活動・地域貢献関連事項について説明】

内山地域連携センター長から、資料7に基づき研究活動・地域高専関連事項について説明があった。

【質疑応答】

ここまでの説明に関する質疑応答が行われた。

なお、質疑応答の概要は次のとおり。

(●：質問・コメント（※質問者氏名等は割愛とする。）

→：回答)

- 高校無償化が実施された場合、高専はどのような取扱いになるのかをお伺いしたい。

→ 今後、高校無償化が実施されることは新聞等で認識しているが、詳細な情報は把握できていない。

(委員からのコメント)

公立高校の無償化は、県が管轄することになるため、国の管轄である高専は取扱いが異なるものと思われる。高専側が県に働きかけて、高専の無償化に繋がった例もあるため、情報収集・共有を行い、対応することが重要である。

- 志願者確保、教育研究・技術支援、就職・進学支援等、きめ細やかに取り組まれており、学生在学中の生活に対しても、丁寧に手厚く対応されている。学生生活が充実したものになるかどうか、鶴岡高専への印象、地域への印象に繋がり、将来の地元定着や地元との関係に大きな影響があると感じた。

多様な人材との交流を進める中で、留学生の受入れ、女子学生の活躍などについて、来年度以降の重点的な取り組みがあればお伺いしたい。

→ 留学生の受入れについて、留学生と日本人学生が交流する「高専グローバルキャンプ」が令和8年度に予定されている。このような国際交流を経験することは、参加学生が成長できる良い機会である。また、令和9年・10年にはタイ高専の学生を研修として1か月受入れる計画もある。学生にはインパクトの強い体験にもなり、高専は海外からの評価が高いということが意識として定着できれば、高専は海外からも注目されていることを知ってもらえると考えている。

女子学生に関しては、女子中学生向け学校説明資料作成を進めている。女子でも安心して学校生活できるような情報（女子学生や女性教員、OGなどのインタビュー等）をまとめ、中学生、保護者、中学校教員に対して発信したい。

- 高専の受験者数減少に関して、中学生が進路を決めきれないことがあり、中学校ではキャリア教育を個別に指導していく必要があるように感じている。中学生の理科系学習への興味関心は高いため、高専に入学して何ができるようになるか等、中学校側で中学生に伝えることができるのではないかと考えている。

コロナ禍を経て、人との関わりを持てない中学生もいる中で、高専に入学する中学生や中学校に求めることがあればお伺いしたい。

→ 学生寮においては、1つの居室で複数名が生活する場合も多く、学生によってはストレスを感じていると思う。最近は、著しく掃除・片付けができ

ない学生もあり、発達障害が起因している場合もある。

自身の行為によって他の人がどのように感じるか、発達障害等を抱える人も
いる中で協調して生活する素養などを身につけて欲しい。

- **最先端研究に触れる機会は教員、学生にとって重要だと考えているが、鶴岡高専から鶴岡サイエンスパークまでは距離があり、遠いのが現状である。近年、オンラインを活用した会議等もあるため、研究機関や大学、全国高専とオンライン等で交流する方法もあると思われるが、そのような取組みがあればお伺いしたい。**

→ 教員によっては、研究者間でオンラインによる交流等を行っており、学生も一緒に参加している場合もある。

現在、全国高専において、各高専で行っている授業を相互視聴できるようなシステムを構築しようとしている。オンデマンド教材を作成し、学生が受講修了することで単位を取得できれば、学生への多様な学びの機会を提供することに繋がるものと考えている。

中学校への出前授業は、大変重要なものと考えている。特に本校学生の出身中学校で実施できれば良いと思っている。今後は、理科実験だけではなく、VRゴーグルを着用した体験授業やキャリア教育など、中学校のニーズも把握しながら実施していきたいと考えている。

(委員からのコメント)

出前授業については、YouTube等での配信も良いかと思われる。

- **本科の卒業研究発表会にて、もっと高価な測定器があれば、深掘りした研究ができるという学生の意見を聞いて残念に感じた。企業と合致する研究課題があれば、企業と連携し、研究経費等の企業からの支援や、企業が保有する研究機器等も使用できるのではないかなと思う。**

卒業研究に係る教員への予算配分状況についてお伺いしたい。

→ 卒業研究の予算は、各コースへ均等に配分されている。コース内における教員への配分は各コースにより異なるが、電気・電子コースは各教員に均等に配分されている状況である。

卒業研究のテーマについては、毎年1月頃に、企業に募集をしており、企業から希望があった場合は、担当教員と調整を行い対応している。

なお、本校の研究機器等については、従前と比較すると、整備されてきていると思う。本校に無い研究機器等については、他の研究機関や大学等で保有している機器を使用するなど、対応は可能であるため、まずは担当教員へ相談するように学生に指導したい。

(委員からのコメント)

卒業研究のテーマ募集について、企業側でも詳細がわからないと判断が難しいところがある。教員からテーマを提案してもらう機会があれば、企業側も応募し易いと思われる。

- 研究設備の共用について、購入機器等を把握して、共用を推進して欲しい。

山形大学、新潟大学、長岡技術科学大学、東北大学等が鶴岡高専の周りにあり、良い研究環境であるため、相互連携することで、学生に刺激を与えることができると思う。

志願者確保について、どこでも厳しい状況であるが、大切なことは、機関の研究成果や実績ではなく、学生の生活環境、教育研究環境である。国際寮新設、校舎・学生寮改修、コンビニ開店など、中学生や保護者へPRすることで志願者確保に繋がると思う。

【閉会】

上野委員長から本日の会議の進行について各委員の方々より協力いただいた旨の謝辞の言葉が述べられた後、佐藤副校長から、出席いただいた各委員の方々へ、本校に対しての貴重なご提言・ご意見をいただいた旨、謝辞の言葉が述べられ、運営協議会が閉会した。

(以上)

Ⅱ 資 料 編

令和6年度 鶴岡工業高等専門学校運営協議会 議事

日 時： 令和7年3月10日（月）14時30分から16時30分まで

場 所： 鶴岡工業高等専門学校 1号館3階 大会議室

議 題： 1 委員長（議長）の選出について

2 鶴岡高専の概要説明（※質疑応答 含む）

3 その他

配付資料一覧

説 明 者

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1 運営協議会委員名簿、本校関係出席者名簿、席次表【資料 1】 | |
| 2 学校運営の概要について | 【資料 2】 校長(代理;佐藤副校長) |
| 3 教務関連事項について | 【資料 3】 教務主事／総務主事 |
| 4 学生関連及び寮務関連事項について | 【資料 4】 学生主事・寮務主事 |
| 5 財務基盤及び管理運営について | 【資料 5】 事務部長 |
| 6 専攻科関連事項について | 【資料 6】 専攻科長 |
| 7 研究活動・地域貢献関連事項について | 【資料 7】 地域連携センター長 |
| 8 鶴岡工業高等専門学校運営協議会規程 | 【資料 8】 |

（注： 以降の資料は外部委員のみに配付）

- 9 令和6年度 学生便覧
- 10 学校総覧 2024
- 11 College Profile
- 12 令和7年度 学生募集要項
- 13 令和7年度 学生募集要項（二次募集）0
- 14 令和7年度 専攻科学生募集要項

日 程 及 び 概 要

開 会	総務課長（進行）
本校出席者紹介	総務課長
運営協議会委員紹介	総務課長
校長挨拶	校長（代理；佐藤副校長）
日程説明及び配付資料の確認	総務課長
委員長（議長）選出	総務課長
委員長 挨拶	委 員 長

進 行 順 序	予定時刻	説明事項等	説明者等
趣旨説明	14:40		総務課長
学内関係者 説明	14:45	学校運営の概要について	校 長 (代理;佐藤副校長)
	15:15	教務関連事項について	教務主事／総務主事
	15:25	学生関連事項及び寮務関連事項について	学生主事・寮務主事
	15:30	財務基盤及び管理運営について	事務部長
	15:35	専攻科関連事項について	専攻科長
	15:40	研究活動・地域貢献関連事項について	地域連携センター長
	15:45	【 ※各委員の方からの助言・指導 質疑応答 】	

（16:25 頃～）

委員長まとめ	委 員 長
校長謝辞	校 長（代理；佐藤副校長）
閉 会	
事務連絡	総務課長

資料 1 - 1

令和7年3月10日
鶴岡高7専運営協議会

令和6年度鶴岡工業高等専門学校運営協議会 委員名簿

区分	No	職 名	フリガナ 氏 名 ※敬称略	備考
1号委員	1	鶴岡商工会議所会頭	ウエ ノ マサ シ 上 野 雅 史	
	2	山形県庄内総合支庁長	ムラ ヤマ トモ ヤ 村 山 朋 也	
	3	田川地区中学校長会 (鶴岡市立朝日中学校長)	アキ ヤマ ナオ シ 秋 山 尚 志	
2号委員	4	国立大学法人長岡技術科学大学長	カマ ド シゲ ハル 鎌 土 重 晴	
	5	慶應義塾大学先端生命科学研究所長	アラ カワ カズ ハル 荒 川 和 晴	欠席
3号委員	6	鶴岡高専技術振興会長（鶴岡市長） 【代理】 鶴岡高専技術振興会理事	ミナ カワ オサム 皆 川 治 ムラ カミ リョウイチ 村 上 良 一	
	7	鶴岡工業高等専門学校峰友会副会長	ア ベ ノブ ヒロ 阿 部 信 弘	

資料 1－2

令和7年3月10日
鶴岡高専運営協議会

本校関係者 出席者名簿

No	職 名	氏 名	備考
1	校 長	太 田 道 也	欠席
2	副校長（総務担当・教務担当）／教務主事・総務主事	佐 藤 司	
3	副校長（学生担当）／学生主事	渡 部 誠 二	
4	副校長（寮務担当）／寮務主事	山 田 充 昭	
5	副校長（専攻科担当）／専攻科長	穴 戸 道 明	
6	副校長（研究・地域連携担当）／地域連携センター長	内 山 潔	
7	事務部長	佐 藤 俊 次	
8	総務課長	海 野 博 之	
9	学生課長	山 川 正 敏	
10	総務課課長補佐（総務担当）	大 山 元	
11	総務課課長補佐（財務担当）	中 島 栄 子	
12	総務課課長補佐（施設担当）	阿 部 強 士	
13	総務課課長補佐（学生担当）	中 島 直 樹	
14	総務課企画・連携係長	石 川 良 樹	
15	総務課企画・連携主任	杉 原 由 希	

令和6年度 鶴岡工業高等専門学校運営協議会 席次表

資料1-3

令和7年3月10日(月)
鶴岡高専運営協議会

出入口

スクリーン

内山 潔 (地域連携センター長) 副校長
 矢野 道明 (専攻科長) 副校長
 佐藤 司 (教務・総務主事) 副校長
 渡部 誠二 (学生主事) 副校長
 山田 充昭 (寮務主事) 副校長
 佐藤 俊次 事務部長

--	--	--	--

プロジェクター

--	--	--	--

鎌土 重晴氏 (長岡技術科学大学長)
 秋山 尚志氏 (田川地区中学校長会)
 上野 雅史氏 (鶴岡商工会議所会頭)
 村山 朋也氏 (山形県庄内総合支庁長)
 村上 良一氏 (鶴岡高専技術振興会理事)
 阿部 信弘氏 (鶴岡高専峰友会副会長)

海野博之 (総務課長)

佐藤 慎二氏 (山形県庄内総合支庁 産業経済部 地域産業経済課 産業振興専門員)

渡辺 拓也氏 (鶴岡市商工親部 商工課 主事)

山川 正敏 (学生課長)

中島 直樹 (課長補佐(学生担当))

中島 栄子 (課長補佐(財務担当))

阿部 強士 (課長補佐(施設担当))

大山 元 (課長補佐(総務担当))

PC操作	写真・記録
------	-------

企画・連携係主任 杉原 由希
 企画・連携係長 石川 良樹

令和6年度 運営協議会 【学校運営の概要】

鶴岡高専

鶴岡工業高等専門学校
校長 太田 道也

開催日： 令和7年3月10日（月）
場 所： 鶴岡高専1号館3階 大会議室

目 次



NIT -Tsuruoka

I 学校運営の方針

- 1 校訓・基本教育目標
- 2 令和6年度学校運営方針

II 校長としての所感

III 令和6年度の具体的活動の状況

- 1 教育活動 → 教務主事
- 2 研究活動 → 地域連携センター長
- 3 地域連携活動 → 地域連携センター長
- 4 学生の活躍 → 学生主事
- 5 学生の確保・進路 → 教務主事・学生主事
- 6 学生寮での生活 → 寮務主事

I 学校運営の方針

(1) 令和元年以降の各校長のビジョン



NIT -Tsuruoka

平成28年度～令和2年度高橋校長の掲げた鶴岡高専10年ビジョン

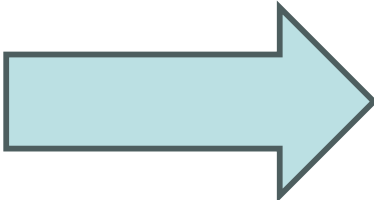
地域から羽ばたくグローバルエンジニアの育成

- ◆ 研究する高専: 研究と教育は両輪(K-ARC)→研究成果の教育へのフィードバック
- ◆ 地域に貢献する高専: 地域を知ること(講義とCO-OP教育)→
 - ・卒業生の地元就職
 - ・融合複合技術分野へのアプローチ
- ◆ 国際通用性を持ったエンジニアを育成する高専:
 - 1) 海外研修、学会発表(国際交流支援室)
 - 2) 英語力強化→学生の短期・長期海外派遣・TOEIC受験

令和3年度・4年度: 森校長の掲げた鶴岡高専10年ビジョン

- ・学生を中心として学校運営
- ・世界水準の学習環境の構築
- ・実践的な教育研究、地域連携を通じた技術革新の牽引

令和元年度幹事監査からの流れ

- 
- 1) 地域連携を基盤にしたグローバル化・研究する高専
 - 2) 実践教育と世界水準の学習環境を有する高専

I 学校運営の方針

(2) 令和5年度から10年先を見越したビジョン



NIT -Tsuruoka

令和5年度(創立60周年): つぎの10年先を見据えた鶴岡高専の取組み(運営基本方針)

- 
- ・学生にとって安全・安心な教育環境の継続的確保と働き方改革の推進
 - ・リスク管理における迅速な判断と指示系統の確保、対応
 - ・地域行政、企業等との産学官連携の推進
 - ・第一ブロック研究推進ボード副主査としての貢献
 - ・先端IT人材の育成に向けた取組み



教育ビジョン: 発想の柔軟性と創造力、主体性と豊かな国際感覚を持った技術者育成

- ① 入学選抜と卒業時の進路: 入口と出口の確保、学生生活の支援体制の充実、女子志願者数増加、COOP教育、インターンシップなどを通じた学生の社会経験を支援
- ② 校務分掌の見直しによるスリム化と組織充実化推進 (女性教員割合の改善、昇任問題の改善、副校長への登用、育児休暇取得者数増加等)、教員の定着率向上、外部講師による学生指導に関するFD研修会、いじめ・自殺防止研修会の実施
- ③ 国際交流(グローバル化推進): 一度は海外経験、混住型国際寮の建設推進
- ④ 時代に即した新しい高専を目指した高専機能強化支援事業への申請: 数理・データサイエンス・AI教育を目指したデジタルデザインコースの新設
- ⑤ 学生が主体的に動く課題解決型教育・スタートアップ教育の推進
- ⑥ 本校卒業生の地域定着率の向上に向けた対策、地域行政・企業との連携に向けた取組み強化

- 校訓

理魂工才

自学自習

自ら学び自ら思考しながら、目先のことだけにとらわれず、その基本となる原理を深く考え、実践を通して工学のセンスを身につける

- 基本教育目標

1. 豊かな人間性と広い視野を持ち，社会人としての倫理を身につける
2. あらゆる学習を通じて思考力を鍛え，創造力に富んだ技術者になる
3. 専門分野の基礎を良く理解し，実際の問題に応用できる能力を培う
4. 意思伝達及び相互理解のため，十分なコミュニケーション力を養う

I - 1 校訓・基本教育目標

創造工学科1学科4コース制

本校では、平成27年度に地域からの要請による産業構造の高度化に対応できる**融合複合技術者の育成**を目指し学科の大括り化による再編を行い、創造工学科1学科4コース体制を構築している。 ■教育体制

<4・5年次>

応用分野で課題発見・
解決能力など実践力を
育成

<2・3年次>

基本コースで技術者の
素養を育成

<1年次>

混合学級とし4学級に
分けて運営



I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

① 入口と出口の確保、女子志願者数増加、学生生活の支援体制の充実、各種コンテストやCOOP教育、インターンシップなど、学生の社会経験を支援

・入口→志願者確保・女子志願者数増加……入試分析結果参照

志願者対策委員会による入試分析(1日体験入学参加者数と受験者数の弱い相関あり)

- 1日体験入学2回、科学フェスタ、ものづくり体験講座、中学教員向け入試説明会3回、学校説明会7回を実施、中学校訪問実験を119件で計1153名に対して実施、地域新聞8回、TV放映・YouTube(ナレジスター等)のメディアを活用

- 中学校ならびに県と市の教育委員会、学習塾を訪問

∴ R5年度1.14倍、R6年度1.13倍、R7年度0.98倍……二次募集(県内公立校前期推薦制導入)
女子学生数は19.9%から21.5%に向上

・出口→各コース長と担任指導

∴ 就職6割、専攻科進学(1割強) & 編入学4割、企業研究セミナー開催(160社参加)

・学生生活の支援体制の充実

保健センターの充実:こころと体の健康調査

保健室 看護師3名(常勤1名、非常勤2名)

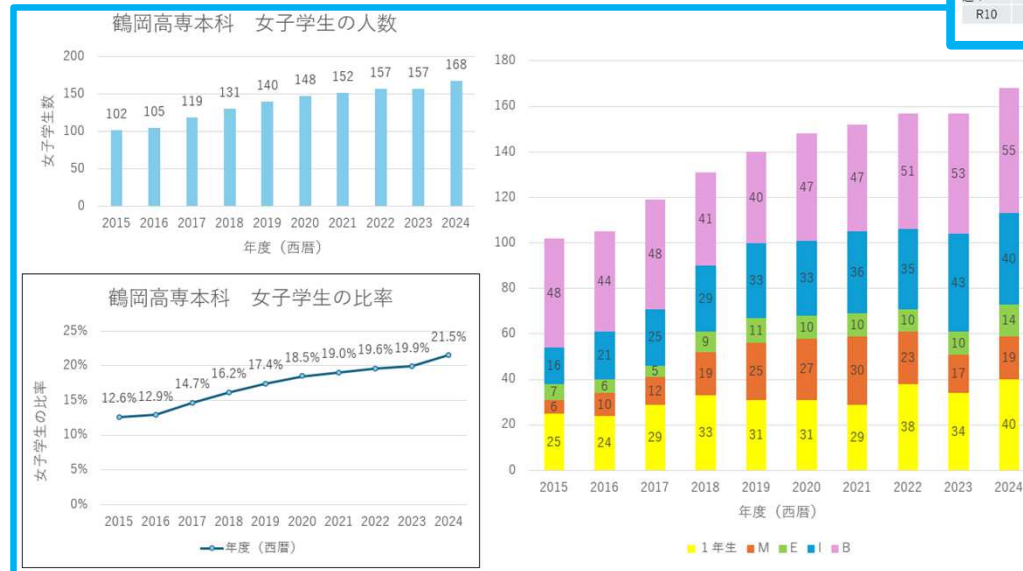
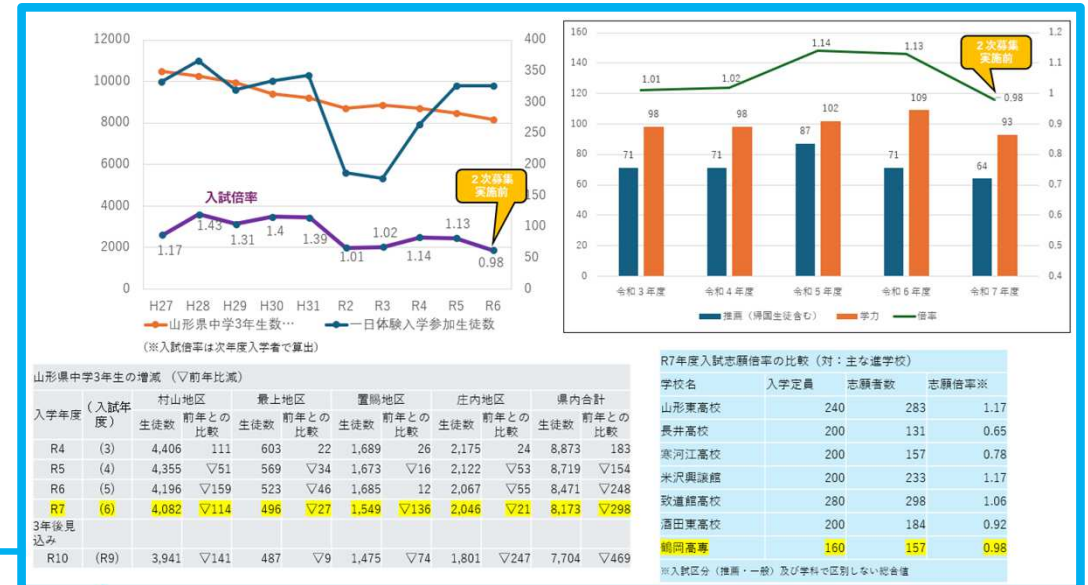
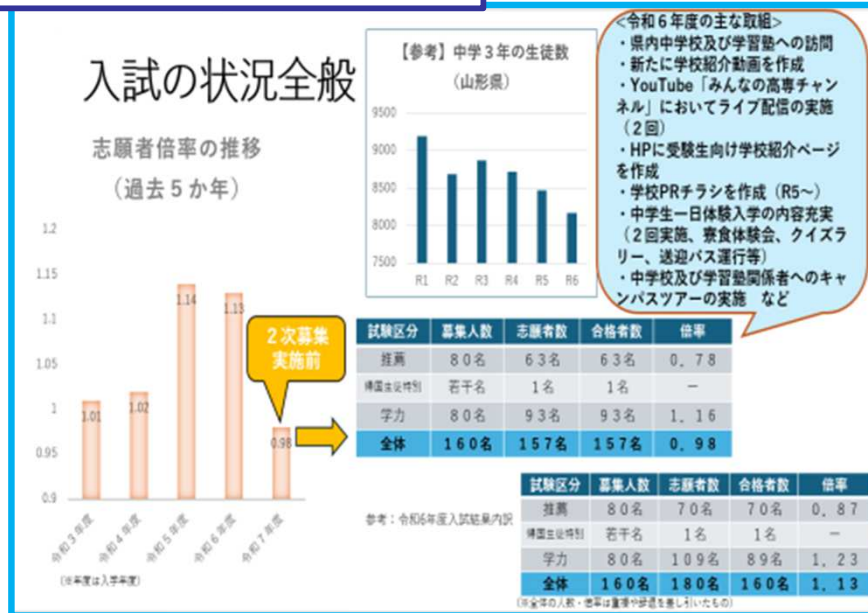
相談室

- スクールカウンセラー3名(対面1名、オンライン2名)に増員(平日相談できる体制)
- スクールソーシャルワーカー2名
- 特別支援教育士1名
- 教育相談員1名
- 精神科医1名

スクールロイヤー1名(令和5年10月1日～令和6年3月31日までの業務契約)

I-2 令和6年度学校運営方針

入学選抜：入試分析結果



I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

卒業時の進路:進路指導・キャリア教育の充実

・企業研究セミナー（令和5年2月4日実施）

☞ 県内60社、県外60社、計120社が参加

☞ コロナ対策（三密回避）を徹底し実施

- ・会場(第一体育館)
- ・事前予約システムの導入



午前・午後ともに各80社が体育館に集合



熱心にメモをとる姿勢



企業概要や業務内容について説明を受けているところ

I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

学生生活の支援体制の充実__1

学習支援体制強化:ピアサポート勉強会

主に低学年を対象に開設され、教員、専攻科生が各種学習相談や進路へのアドバイスを実施！

自学自習スペース開室のお知らせ

日頃から勉強する習慣を定着させるために、自学自習スペースを開設します。

開室時間に教員・専攻科生が常駐します。勉強の悩みや相談も受けます。マナーを守って利用してください。

対象：1～3年生

曜日：試験準備期間の月、火、木曜日に開室

場所：合同講義室

時間：7, 8校時

※開室日は追ってお知らせします。

9月の開室予定日

9日(木) 7, 8校時 合同講義室

13日(月) 7, 8校時 合同講義室

14日(火) 7, 8校時 合同講義室

16日(木) 7, 8校時 合同講義室

21日(月) 5～8校時 合同講義室

22日(火) 7, 8校時 合同講義室

24日(金) 5～8校時 合同講義室

※学校行事等により予定が変更されることがあります。

<利用上の注意>

自学自習スペース内では、スマホ、タブレット他、通信機器の使用は禁止です。良識、マナーと目的意識をもって利用しましょう。



I-2 令和6年度学校運営方針

学生生活の支援体制の充実__2

- ・各種コンテストやCOOP教育、インターンシップなどへの積極的参加と部活動による主体性の育成
→NHKロボコン 地区大会特別賞と推薦で全国大会出場(9年ぶり)・特別賞受賞
GCON 全国大会出場FAINALIST
全国高専デザインコンテスト、プログラミングコンテスト、など

第2回高専 GIRLS SDGs × Technology Contest(高専GCON2023) 本選出場

女子学生を中心としたチームで日頃行っている研究や学習がSDGs観点からさまざまな社会課題に対してどう貢献できるか考えることにより、未来の研究者・技術者としてさらなる成長を促すコンテスト

本選:2024年1月21日(日)13:00~18:00
(東京 日経ホール)

「地域を繋げる課題解決型技術コーディネーター」が出場し、全国高専の中から選抜された12チームの一つとして本選に初出場

研究内容

テーマ:白鷹町の邪魔者ブラックバスで鶴岡市の月山高原ひまわり畑を復活!大作戦

内容:

鶴岡市の観光地「月山高原ひまわり畑」の肥料開発に向けて、白鷹町で釣り人から買い取ったブラックバスを魚粉肥料にする手法構築や、簡易土壌分析法開発について研究しました。



I-2 令和6年度学校運営方針



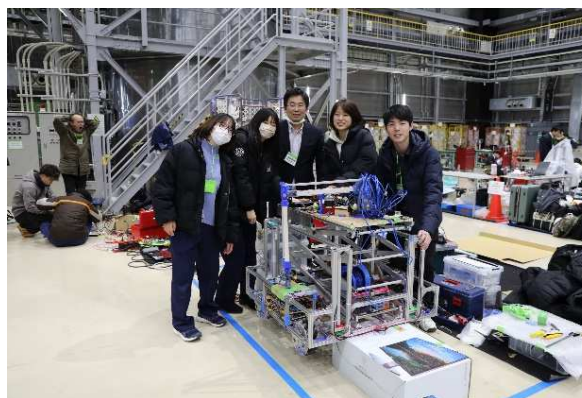
NIT -Tsuruoka

学生生活の支援体制の充実__3

学生が活躍するロボコン・プロコン・廃炉ロボコン・デザコンおよび各種資格取得実績



9年ぶりの全国大会出場ロボコンチーム(アイデア賞受賞)



廃炉ロボコンで株式会社東京エネシス賞受賞したソフトウェア開発部チーム



プロコン決勝トーナメントに出場したチーム

令和5年度 その他学生の活躍

- ・第20回全国デザインコンペティション
⇒プレデザコン部門AMデザインフィールド特別賞
- ・過去の各種資格取得実績
 - 技術士輔 過去3年間で7名
 - 第一種電気工事士 R5:1名、R3:2名
 - 第二種電気工事士 R5:28名、R4:8名、R3:23名
 - 第三種電気主任技術者 R5:1名

I-2 令和6年度学校運営方針

学生生活の支援体制の充実__4

- ① 学生の社会経験を支援
COOP教育、インターンシップ、工場見学旅行(4年生)
- ・ 技術開発能力を育てる就業経験学習
 - ・ 3学年から長期休暇を利用し、就業経験

 工場見学旅行(4年生)

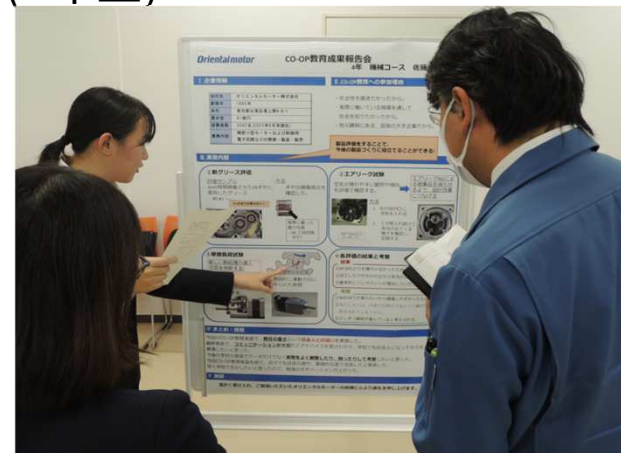
主に関東地区へ

3泊4日、
現地集合、
現地解散

普段は
見るできない
各種企業の工場を見学

＊令和4年度は新型コロナウイルスの影響により中止

11



COOP教育発表会—2



COOP教育発表会—1

I ー2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

② 校務分掌の見直しによるスリム化と組織充実化推進

- ・Scrap & Build → 教員が負担増と感じている委員会をscrapして38委員会を30に、延べ359名の担当教員数を295まで削減
未活用規則の破棄によって教職員が動きやすい環境を整えた
- ・女性教員割合の改善 → R5 情報コース助教1名、R6 電気・電子コース助教1名採用
- ・昇任問題の改善 → R6 教授1名、准教授1名、講師2名
昇任規定：各グループ・コースから三年先を見越した人事計画に基づく推薦制の導入
- ・副校長・校長補佐への登用 → R7年度 登用予定
- ・育児休暇取得者数増加等 → 別紙参照
- ・教員の採用・定着率向上 → 継続中
- ・外部講師による学生指導に関するFD研修会、いじめ・自殺防止研修会の実施
→ 1年に教職員向けと学生向けにそれぞれ1回

③ 国際交流(グローバル化推進)：一度は海外経験、混住型国際寮の建設推進

- ・学生・教職員対象に夏季オンライン英会話を実施、50名の学生に海外研修
- ・渡航費をJASSO、JST、トビタテ留学！JAPANに申請、また、鶴岡高専技術振興会会員企業からグローバル人財育成基金として寄附金を募り対応

I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

校務分掌の見直しについて

20240401

【見直し前】			【見直し後】		
会議体又は組織	構成人数		会議体又は組織	構成人数	
1 将来構想・戦略会議	9	(廃止)	1 運営会議	18	
2 運営会議	21	(委員構成見直し)	2 自己点検・評価委員会	12	
3 志願者確保マーケティングチーム	5	(委員会へ格上げ)	3 教員業績評価委員会	9	
4 自己点検・評価委員会	12		4 いじめ防止対策委員会	7	
5 教員業績評価委員会	9		5 情報セキュリティ管理委員会	14	
6 教務委員会	12		6 教務委員会	11	
7 学生委員会	13	(委員構成見直し)	7 入学試験委員会	14	
8 寮務委員会	16	(委員構成見直し)	8 志願者対策委員会	5	
9 専攻科委員会	9		9 ハラスメント防止対策委員会	6	
10 入学試験委員会	14		10 安全衛生・環境保全委員会	13	
11 教育改革FD委員会	5	(統合)	11 学生委員会	5	
12 進路指導委員会	12	(名称変更)	12 キャリア支援委員会	10	
13 いじめ防止対策委員会	7		13 寮務委員会	7	
14 教員点検委員会	5	(統合)	14 専攻科委員会	9	
15 教育改善委員会	5	(統合)	15 知的財産委員会	3	
16 施設・設備マネジメント委員会	7	(委員構成見直し)	研究倫理委員会（ヒトを対象とする研究）	5	
17 男女共同参画推進委員会	9	(名称変更)	16 研究倫理委員会（組換えDNA）	4	
18 発明委員会	3		研究倫理委員会（動物実験）	4	
19 ハラスメント防止対策委員会	6		17 FD・点検改善委員会	7	
20 情報セキュリティ管理委員会	13		18 情報セキュリティ推進委員会	8	
21 情報セキュリティ推進委員会	10		19 情報公開委員会	10	
22 情報セキュリティ推進員	9	(統合)	20 施設・設備マネジメント委員会	6	
23 情報公開委員会	9		21 男女共同参画推進委員会	6	
24 安全衛生・環境保全委員会	12		22 教育研究技術支援センター運営委員会	14	
25 教育研究技術支援センター運営委員会	13	(新設)	23 図書委員会	4	
26 動物実験委員会	4	(統合)	24 特別事業推進委員会	15	
27 組換えDNA実験安全委員会	4	(統合)	25 情報メディアセンター（CSIRT、情報推進員兼務）	8	
28 ヒトを対象とする研究倫理審査委員会	4	(統合)	26 ソフトウェア総括管理担当者及びソフトウェア管理担当者	5	
29 モデルコアカリキュラム等評価検討委員会	10	(廃止)	27 地域連携センター	6	
30 総合メディアセンター	11	(統合)	28 保健センター	16	
31 情報技術専門部	4	(廃止)	29 ハラスメント相談員（保健センター相談員兼務）	12	
32 CSIRT	7	(統合)	30 国際交流支援室	11	
33 ソフトウェア総括管理担当者及びソフトウェア管理担当者	5		31 広報編集室	9	
34 地域連携センター	18	(部門の廃止)	計	293	
35 保健センター	16				
36 ハラスメント相談員（保健センター相談員兼務）	13				
37 国際交流支援室	9				
38 情報広報室	9	(部門の再編)			
計	359				

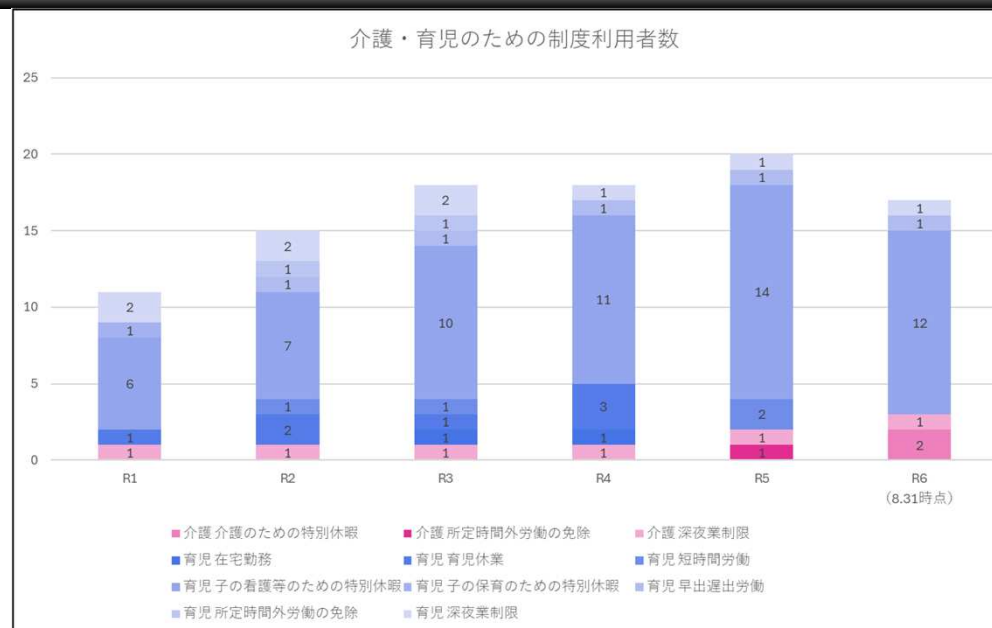
教職員の業務負担軽減を実現！

I-2 令和6年度学校運営方針



NIT-Tsuruoka

育児休暇取得者数増加



制度		R1	R2	R3	R4	R5	R6 (8.31時点)
介護	在宅勤務						
	介護休業						
	短時間労働						
	部分休業						
	介護のための特別休暇						2
	早出遅出労働						
	所定時間外労働の免除					1	
	所定時間外労働の制限						
	深夜業制限	1	1	1	1	1	1
育児	在宅勤務				1	1	
	育児休業	1	2	1	3		
	短時間労働		1	1		2	
	部分休業						
	子の看護等のための特別休暇	6	7	10	11	14	12
	子の保育のための特別休暇	1					
	早出遅出労働		1	1	1	1	1
	所定時間外労働の免除		1	1			
	所定時間外労働の制限						
	深夜業制限	2	2	2	1	1	1
利用人数合計		11	15	18	18	20	17

I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

国際交流(グローバル化推進)__1

③ 国際交流:一度は海外経験

R5年度海外派遣等:50名

- ・台湾の大学5名、タイ2名、インドネシア1名、シンガポール18名、台湾22名、トビタテ留学! JAPAN(USA1名、アイスランド1名)

R6年度海外派遣等:61名

- ・マレーシア2名、台湾8名、ベトナム3名、シンガポール29名、ニュージーランド15名、フランス1名、ラトビア1名、その他2名

海外からの受入れ:学生5名、教員ら7名

- ・留学生受け入れ5名 フィンランド1名、フランス1名、タイ1名、台湾2名
- ・JICA国際協力事業 バングラデシュプロジェクト:バングラデシュ教員ら7名を受入れ、技術教育研修と本校学生達(本科4年生2名、本科5年生4名)との意見交換会

卒業生の海外勤務等用証明書発行記録

令和4年度 10件

令和5年度 12件

令和6年度 **15件** ([アジア11件+欧米2件]+[その他2件])
中国3、タイ2、マレーシア2、台湾1、インドネシア1、ベトナム1、トルコ1、アメリカ合衆国1、ハンガリー1

TOEIC、英会話

- ・TOEIC IP試験の実施...本科4年生、専攻科1年生は必須

令和5年度:4回実施で2回は専攻科1年生必須
1回は本科4年生必須、他は希望者

- ・英会話レッスン

夏季オンライン

英会話レッスン開催

TOEICスコアの平均点推移		
4年生	専1	
2018年 355.5	425.0	
2019年 343.4	408.8	
2021年 345.6	388.5	
2022年 363.8	479.1	
2023年 382.5	436.5	高



I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

③ 国際交流(グローバル化推進) R5年度-6年度

1. 学生の海外派遣に伴う教務的対応

欠席について: 夏季休業期間中に派遣するが受入れ先の事情によっては授業期間に延びることが想定されることから
公欠として扱えるよう教務委員会で規程の申し合わせ内容を見直した

単位について: 「学校以外の教育施設等における学修」として単位化を検討する。現在の規程では、夏季休業期間中
での実施を前提としているので、見直しが必要

教員の国際化について: 全教員にTOEICオンラインテスト受験を推奨する

2. 留学生の受入れ

長期留学生について: 2020~2024にかけて6~7名を受入れている(表1)

2024年度、タイ高専より1名の留学生在編入学

短期留学生について: 2022年より受入れを再開し、毎年5~2名の留学生在
受入れている(表2)

3. 学生の海外派遣状況

2023年度は台湾、シンガポール等に50名?? ?の学生を派遣

4. 学生の英語力に関する分析・評価(表3)

現在(2024年1月)本校4年生は平均382点、専攻科1年生は平均436点である。TOEICの
大学生(工学系)の平均は470点であり、500点を超えれば英語に対する基礎能力があると
判断するので、本校では5年生は500点、専攻科2年生は550点を目標とする。

表1 長期留学生受入れ状況

派遣種別	派遣種別留学生数				
	2020	2021	2022	2023	2024
国費留学生	4	3	4	4	6
タイ高専派遣留学生	0	0	0	0	1
モンゴル政府派遣留学生	3	4	2	2	0
計	7	7	6	6	7

表2 短期留学生受入れ状況

年度	フィンランド	フランス	タイ	台湾	合計
2020	0	0	0	0	0
2021	0	0	0	0	0
2022	1	0	2	1	4
2023	1	1	1	2	5
2024	2	0	0	0	2

表3 学生のTOEICスコア状況

分類	単位	現在値
本科1年	点数(点)	295
	受験者数(名)	1
本科2年	点数(点)	478.6
	受験者数(名)	11
本科3年	点数(点)	388.1
	受験者数(名)	26
本科4年	点数(点)	382.5
	受験者数(名)	147
本科5年	点数(点)	342.5
	受験者数(名)	2
専攻科1年	点数(点)	436.5
	受験者数(名)	17
専攻科2年	点数(点)	
	受験者数(名)	0

鶴岡高専技術振興会会員企業からのグローバル人財育成基金の寄附
→ 6社 ¥130万 → 学生の渡航費負担

I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

③ 国際交流(グローバル化推進): 単位認定(英語系、各種資格、実務体験など)



学外の学修に関する単位認定

実用英検を始め技術英語やTOEIC、各種資格試験の受験を推奨し、
単位認定を行う制度があります。

➤ 実用英検

準2級	1単位
2級	2単位
準1級	4単位
1級	6単位

➤ TOEIC

400点～495点	1単位
500点～695点	2単位
700点～895点	4単位
900点～990点	6単位

➤ 技術英語

2級	1単位
1級	2単位
準プロフェッショナル	4単位
プロフェッショナル	6単位

➤ 甲種危険物取扱者試験 2単位

➤ 技術士試験(第一次試験・技術士補) 5単位

➤ 電気工事士

第二種	1単位
第一種	2単位

➤ 電気主任技術者

第三種	2単位
第二種	4単位
第一種	6単位

➤ CO-OP実習 最大4単位

➤ 海外技術英語研修 1単位

➤ 自主探究活動 1単位

➤ 社会実習(社会福祉・技術支援) 1単位

➤ インターンシップ 1単位

➤ 校外実習 1単位

I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

海外派遣・受入～国際交流～ 1

派遣・受入ともに活発な交流を継続し、学生の国際マインド育成

【派遣】 海外協定校等へ学生派遣：グローバルで活躍できるエンジニアへ！

【受入】 短期留学生の受入：キャンパス内での国際交流

【2023年度派遣実績】 留学再開。学生50名が海外経験！



学年	派遣人数
1年	0
2年	25
3年	13
4年	7
5年	2
専攻科	3

プログラム	国・地域	派遣人数
スタディツアー（5日間）	台湾	22
研修型（2週間）	シンガポール	18
研究型（1か月）	台湾、タイ	7
トビタテ！留学JAPAN	アメリカ、アイスランド	2
フィールドワーク	インドネシア	1



I-2 令和6年度学校運営方針

海外派遣・受入～国際交流～_2

多彩な海外留学プログラム 2024



2024年度版

スタディツアー

台湾・マレーシア

夏休み/春休み 5日間

全学年対象

企業訪問、文化施設訪問など
初めての海外、少し不安な学生にも人気。

step up!

研修型

シンガポール・
ニュージーランド

春休み 2週間

全学年対象

協定校で英語や多民族文化を学ぶ。
協定校の寮orホテル(シンガポール)/
ホームステイ(NZ)

奨学金
5～8万円

奨学金
5～15万円

研究型

シンガポール・台湾・タイetc.

春休み 1～2ヶ月

4・5年生、専攻科対象

協定校の研究室で教員指導のもと研究を行う。
日本学生支援機構の奨学金受給も可能。

奨学金
5～25万円

トビタテ！留学JAPAN、
他高専等主催プログラム

本校に募集がある場合、他高専等が実施する
プログラムに参加することもできます。



様々な留学制度を幅広く活用し、
海外へ羽ばたく学生を支援します

!

I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

海外派遣・受入～国際交流～__3

海外研修中の学生達と短期留学生達の取組みの様子

2023年度海外研修ならびに2024年度本校への短期留学



2023タイKMITL短期派遣



2023春シンガポール研修



2023春シンガポール研修



2023春シンガポール研修



トビタテ留学！JAPAN報告会



2023 台湾NUU短期派遣



2024 フィンランドからの留学生



2024 フィンランドからの留学生

I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

④ 時代に即した新しい高専を目指した高専機能強化支援事業への申請

独立行政法人大学改革・学位授与機構による「令和6年度大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に本校事業が採択

【鶴岡高等専門学校】 学科改組によるデジタルデザインコースの新設

2030年には先端IT人材が54.5万人不足

全国51高専中15高専採択：
東北地区では仙台と鶴岡高専

成長分野をけん引する高度人材の育成、
輩出を担う大学及び高等専門学校の機能
強化



本校の取り組み：

創造工学科のもとに4コース制が従来の
教育体制であったが、DX人材の不
足に対する対策として、全コースの専
門分野で活躍するDX人材の育成に
向けて学科改組を検討

本科の改組について（R7年度デジタルデザインコ
ース新設）



文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル/応用基礎レベル)」認定に向けた取組み

I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

④ 時代に即した新しい高専を目指した高専機能強化支援事業への申請

R7年度から新コース体制に デジタルデザインコースが新設されます

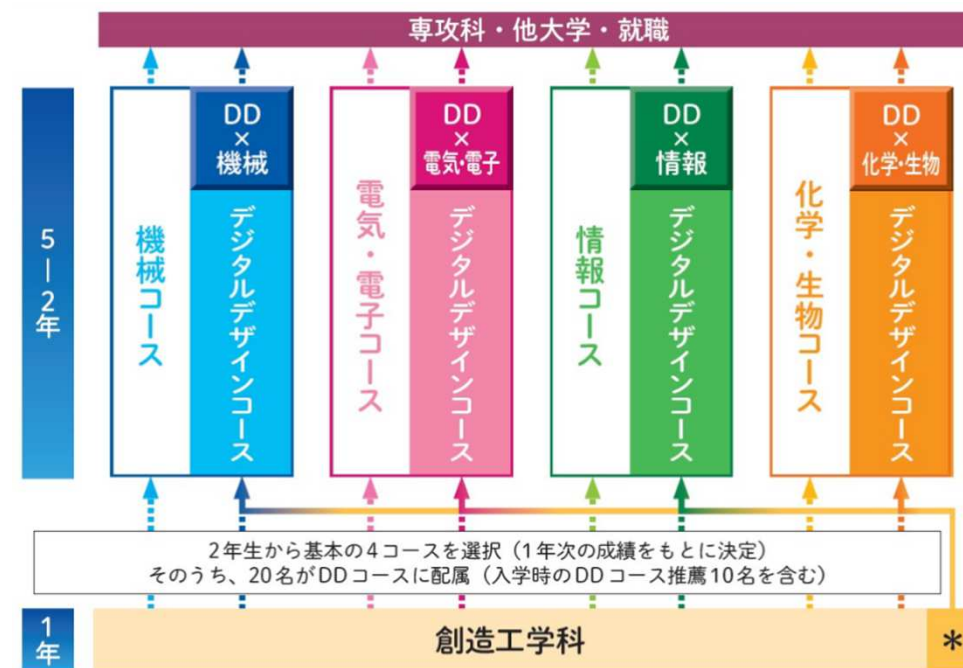
探求型 DX人材育成コース

▶どんな体制？

- ✓入学時に推薦10名が先行してデジタルデザイン(DD)コースに配属されます。
- ✓2年進級時に20名(推薦10名を含む)が基本4コースのいずれかを選択してデジタルデザインコースに配属されます。
※2年進級時の各コースへの配属は、コース選択希望調査に対して1年次の成績をもとに決まります。

▶どんな特徴？

- ✓基本コースの『専門知識×デジタル』の実践的なデザイン・製作・解析技術を身につけます。
- ✓1年次から学生1人1人にメンターがつき、地域や企業が抱える課題に対する探求活動を推進します(デジタルデザイン実践工学)。
- ✓探求活動の成果を各種コンテスト等で発信します。



*デジタルデザインコース推薦入学(10名)

全コースで情報系教育プログラム(データサイエンスやAI)を強化

I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

⑤ 学生が主体的にうごく課題解決型教育・スタートアップ教育の推進

- ・「モノづくり」の工学的センスを学生実験実習から学ぶと同時に、座学からも基本的なグループワーク・知的財産権・品質管理・経営工学を修得する。
- ・プレゼンテーションを繰り返しながらプライオリティーの考えを身につける。
- ・起業家精神(アントレプレナーシップ)育成に向けて、産学官の協力を得て取組を強化する。
- ・海外派遣や海外からの訪問者との意見交換会によって社会情勢を体験し、グローバルゼーションを身につける。



I-2 令和6年度学校運営方針



NIT -Tsuruoka

⑤ 学生が主体的にうごく課題解決型教育・スタートアップ教育の推進

アントレプレナーシップ・ビジネスプランキャリアプラン・マーケティングに関する授業の推進

総合工学

知識＋ジェネリックスキル＋創造性

社会で活躍するために必要な人間力や主体性をはぐくむ授業です

1年生:グループワーク＋ポスター発表（対話・傾聴・アウトプット）

2年生＋4年生:学年縦断グループワーク＋パテント・企業取材（キャリア設計・マネージメント・自己分析）

3年生:グループワーク＋ビジネスプラン（起業家精神・社会変化・主体性）



山形の郷土料理について知ることができる
高専生が作った
アナログゲームってどうですか？

鶴岡高専_ミルメーク
松澤千穂、岡部時史、植定肇也



I-2 令和6年度学校運営方針



課題解決型教育・スタートアップ教育

その2

NIT-Tsuruoka

3学年総合工学IIIシラバス

4学年総合工学IVシラバス

専攻科2学年経営工学シラバス

総合工学III	総合工学III
科目基礎情報 科目番号 0036 授業形態 講義 開設学科 創造工学科(機械コース) 開設期 通年 教科書/教材 適宜プリント等配布 担当教員 荒船 博之, 大西 宏昌, 森永 隆志, 松橋 晋太, 伊藤 卓朗	科目基礎情報 科目番号 0036 授業形態 講義 開設学科 創造工学科(化学・生物コース) 開設期 通年 教科書/教材 適宜プリント等配布 担当教員 荒船 博之, 大西 宏昌, 森永 隆志, 松橋 晋太, 伊藤 卓朗
到達目標 1. エンジンとして必要な要素を身に付ける。 2. グループディスカッションを行い、チームで効果よく成果を出す事が出来る。 3. グループディスカッションを行い、自身の意見を論理的に述べることが出来る。 4. DX(デジタルトランスフォーメーション)など、高度情報化社会において目まぐるしく変化する社会の構造変化・技術発展を視野入れ、その上で企業をリアルに検討することが出来る。	到達目標 1. エンジンとして必要な要素を身に付ける。 2. コミュニケーションについて学び、チームで効果よく成果を出す事が出来る。 3. グループディスカッションを行い、自身の意見を論理的に述べることが出来る。 4. デジタル化社会(データ駆動型、AI技術の活用)において、働き方やモノづくり技術にどのような変化が生じているかを企業のインタビュを通して理解する。
ルーブリック 評価項目1 工学の基礎となる知的財産を理解できる。 評価項目2 グループディスカッションにて、自身の意見を論理的に述べることが出来る。 評価項目3 現状を正確に把握し、新しいビジネスモデルを創出出来る。	ルーブリック 評価項目1 工学に必要な知識を良く理解できる。 評価項目2 グループディスカッションにて、自身の意見を述べることが出来る。 評価項目3 新しいアイデアを創出し、それに関する特許を書く事が出来る。
学習の到達目標項目との関係 (A)知識を統合し多面的に問題を解決する能力を身につける。 教育方法等 概要 知能、記憶、デジタル化社会におけるビジネスの変化など技術者として必要な要素を身に付ける。 授業の進め方・方法 グループディスカッションを取り入れる事で、コミュニケーション力、発表力、思考力を総合的に養育。 注意点 この科目は学習単位科目のため、授業開始日だけでなく、実習期間を使い各グループでスケジュールを立てて自主的に進めること、本講義は前学期後学期「スタートアップ」A教育プログラムの対象科目であることを留意して受講する事を勧める。 事前・事後学習、オフィスアワー 授業の属性・履修上の区分 ☒ アクティブラーニング ☒ ICT 利用 ☐ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業	学習の到達目標項目との関係 (A)知識を統合し多面的に問題を解決する能力を身につける。 教育方法等 概要 企業家精神、知的財産、起業、キャリアプラン、デジタル化社会におけるモノづくり技術の変化など、技術者として必要な要素を身に付ける。 授業の進め方・方法 教材配布による通年授業ならグループディスカッション、レポート提出を基本とする。 注意点 シラバス表の到達目標に沿って総合的に評価し、その結果を自己評価とする。 事前・事後学習、オフィスアワー 授業の属性・履修上の区分 ☒ アクティブラーニング ☒ ICT 利用 ☐ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画 3rdQ 1週 カイダンス・担当教員の自己紹介、シラバス等の授業計画と評価の説明 2週 アントレプレナーシップ・自身で起業した経営者の講演を聴き、起業する意義や目的について考える。 3週 デジタルトランスフォーメーション・起業家、経営者の講演を聴き、起業についてイメージする。 4週 ビジネスプランを考える・チーム結成、アイデア発表する。 5週 ビジネスプランを考える・各グループで出たアイデアについて議論し、グループのアイデアとしてまとめる。 6週 ビジネスプランを考える・アイデアの実現に向けて具体的な収益や実現計画について考える。 7週 ビジネスプランを考える・アイデアを伝えるためのプレゼンテーション資料を作成する。 8週 ビジネスプラン・前学期発表・授業結果の1位8チームが4グループ、外部企業者に向けて発表を行う。	授業計画 3rdQ 1週 カイダンス 2週 情報リテラシー 3週 個性検査1 4週 パンダコンテスト1 5週 パンダコンテスト2 6週 パンダコンテスト3 7週 キャリアプラン1 8週 キャリアプラン2 9週 キャリアプラン3 10週 キャリアプラン4 11週 キャリアプラン5 12週 キャリアプラン6

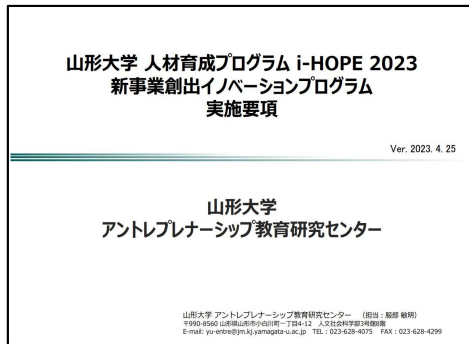
総合工学IV	総合工学IV
科目基礎情報 科目番号 0056 授業形態 講義 開設学科 創造工学科(化学・生物コース) 開設期 通年 教科書/教材 適宜プリント等配布 担当教員 荒船 博之, 大西 宏昌, 森永 隆志, 松橋 晋太, 伊藤 卓朗	科目基礎情報 科目番号 0056 授業形態 講義 開設学科 創造工学科(化学・生物コース) 開設期 通年 教科書/教材 適宜プリント等配布 担当教員 荒船 博之, 大西 宏昌, 森永 隆志, 松橋 晋太, 伊藤 卓朗
到達目標 1. エンジンとして必要な要素を身に付ける。 2. コミュニケーションについて学び、チームで効果よく成果を出す事が出来る。 3. グループディスカッションを行い、自身の意見を論理的に述べることが出来る。 4. デジタル化社会(データ駆動型、AI技術の活用)において、働き方やモノづくり技術にどのような変化が生じているかを企業のインタビュを通して理解する。	到達目標 1. エンジンとして必要な要素を身に付ける。 2. コミュニケーションについて学び、チームで効果よく成果を出す事が出来る。 3. グループディスカッションを行い、自身の意見を論理的に述べることが出来る。 4. デジタル化社会(データ駆動型、AI技術の活用)において、働き方やモノづくり技術にどのような変化が生じているかを企業のインタビュを通して理解する。
ルーブリック 評価項目1 工学の基礎となる知的財産を理解できる。 評価項目2 グループディスカッションにて、自身の意見を論理的に述べることが出来る。 評価項目3 現状を正確に把握し、新しいビジネスモデルを創出出来る。	ルーブリック 評価項目1 工学に必要な知識を良く理解できる。 評価項目2 グループディスカッションにて、自身の意見を述べることが出来る。 評価項目3 新しいアイデアを創出し、それに関する特許を書く事が出来る。
学習の到達目標項目との関係 (A)知識を統合し多面的に問題を解決する能力を身につける。 教育方法等 概要 知能、記憶、デジタル化社会におけるビジネスの変化など技術者として必要な要素を身に付ける。 授業の進め方・方法 グループディスカッションを取り入れる事で、コミュニケーション力、発表力、思考力を総合的に養育。 注意点 この科目は学習単位科目のため、授業開始日だけでなく、実習期間を使い各グループでスケジュールを立てて自主的に進めること、本講義は前学期後学期「スタートアップ」A教育プログラムの対象科目であることを留意して受講する事を勧める。 事前・事後学習、オフィスアワー 授業の属性・履修上の区分 ☒ アクティブラーニング ☒ ICT 利用 ☐ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業	学習の到達目標項目との関係 (A)知識を統合し多面的に問題を解決する能力を身につける。 教育方法等 概要 企業家精神、知的財産、起業、キャリアプラン、デジタル化社会におけるモノづくり技術の変化など、技術者として必要な要素を身に付ける。 授業の進め方・方法 教材配布による通年授業ならグループディスカッション、レポート提出を基本とする。 注意点 シラバス表の到達目標に沿って総合的に評価し、その結果を自己評価とする。 事前・事後学習、オフィスアワー 授業の属性・履修上の区分 ☒ アクティブラーニング ☒ ICT 利用 ☐ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画 3rdQ 1週 カイダンス 2週 情報リテラシー 3週 個性検査1 4週 パンダコンテスト1 5週 パンダコンテスト2 6週 パンダコンテスト3 7週 キャリアプラン1 8週 キャリアプラン2 9週 キャリアプラン3 10週 キャリアプラン4 11週 キャリアプラン5 12週 キャリアプラン6	授業計画 3rdQ 1週 カイダンス 2週 情報リテラシー 3週 個性検査1 4週 パンダコンテスト1 5週 パンダコンテスト2 6週 パンダコンテスト3 7週 キャリアプラン1 8週 キャリアプラン2 9週 キャリアプラン3 10週 キャリアプラン4 11週 キャリアプラン5 12週 キャリアプラン6

経営工学	経営工学
科目基礎情報 科目番号 0070 授業形態 講義 開設学科 専攻科一般科目・共通専門科目 開設期 前期 教科書/教材 基礎から学ぶ品質工学 小野元久(編著) 日本規格協会・TQ-BaEエンジニアリング検定公式テキスト 品質管理基礎、TQ-BaEエンジニアリング検定委員会(編著) 奥原 正夫(著)、工学研究社	科目基礎情報 科目番号 0070 授業形態 講義 開設学科 専攻科一般科目・共通専門科目 開設期 前期 教科書/教材 基礎から学ぶ品質工学 小野元久(編著) 日本規格協会・TQ-BaEエンジニアリング検定公式テキスト 品質管理基礎、TQ-BaEエンジニアリング検定委員会(編著) 奥原 正夫(著)、工学研究社
到達目標 1. 品質工学を理解でき、研究など具体的な事例に活用できる。 2. 品質工学を基礎知識として、グローバル経済に向けて、企業と取り巻く環境と望まれる人材について理解できる。	到達目標 1. 品質工学を理解でき、研究など具体的な事例に活用できる。 2. 品質工学を基礎知識として、グローバル経済に向けて、企業と取り巻く環境と望まれる人材について理解できる。
ルーブリック 評価項目1 品質工学を理解できる。 評価項目2 IE, VE, トヨタ生産方式について理解できる。 評価項目3 企業戦略、組織、人事、マーケティング、流通、財務、会計などについて理解できる。	ルーブリック 評価項目1 品質工学を理解できる。 評価項目2 IE, VE, トヨタ生産方式について理解できる。 評価項目3 企業戦略、組織、人事、マーケティング、流通、財務、会計などについて理解できる。
学習の到達目標項目との関係 (A)知識を統合し多面的に問題を解決する能力を身につける。 教育方法等 概要 品質工学の基礎知識を身に付ける。 授業の進め方・方法 品質工学の基礎知識を身に付ける。 注意点 品質工学の基礎知識を身に付ける。	学習の到達目標項目との関係 (A)知識を統合し多面的に問題を解決する能力を身につける。 教育方法等 概要 品質工学の基礎知識を身に付ける。 授業の進め方・方法 品質工学の基礎知識を身に付ける。 注意点 品質工学の基礎知識を身に付ける。
事前・事後学習、オフィスアワー 授業の属性・履修上の区分 ☒ アクティブラーニング ☒ ICT 利用 ☐ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業	事前・事後学習、オフィスアワー 授業の属性・履修上の区分 ☒ アクティブラーニング ☒ ICT 利用 ☐ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画 3rdQ 1週 カイダンス 2週 情報リテラシー 3週 個性検査1 4週 パンダコンテスト1 5週 パンダコンテスト2 6週 パンダコンテスト3 7週 キャリアプラン1 8週 キャリアプラン2 9週 キャリアプラン3 10週 キャリアプラン4 11週 キャリアプラン5 12週 キャリアプラン6	授業計画 3rdQ 1週 カイダンス 2週 情報リテラシー 3週 個性検査1 4週 パンダコンテスト1 5週 パンダコンテスト2 6週 パンダコンテスト3 7週 キャリアプラン1 8週 キャリアプラン2 9週 キャリアプラン3 10週 キャリアプラン4 11週 キャリアプラン5 12週 キャリアプラン6

I-2 令和6年度学校運営方針

アントレプレナーシップ授業の実施例

・総合工学III



アントレプレナーシップ教育研究センター：プログラム紹介			
山形大学 人材育成プログラム i-HOPE			
※ i-HOPE: Development of innovative human resource toward Outcomes the Program for Entrepreneurship 山形大学EDGE-NEXT人材育成プログラムの後継 → i-HOPE (イノベーション人材育成)			
プログラム・コース名	対象	重点	育成のねらいと実施内容
新事業創出 イノベーションプログラム	人材 育成 + 学生 社会人	人材 育成 + 新規 事業	育成：リーダー人材/イノベーター人材 目的：新規事業立ち上げ(会社、起業(個人)) 内容：アントレプレナーシップ教育(マインドセット、 スキルセット、プラクティス)、事業化支援等 開催：講義 隔週土曜日 全15回+合宿研修 2回
リーナマネジメント推進 リーダー育成コース	社会人 + 学生	人材 育成 + 基礎 強化	育成：リーダー人材/マネジメント人材 目的：経営課題解決、収益力強化 実施：リーナマネジメント教育(生産性向上、経営 改善、収益改善等、問題解決手法の習得開 催：毎週火曜日全16回開催
IT人材育成プログラム ・スーパーエンジニアプログラ ミングスクール(SEPS) ・DX基礎強化推進リーダー 育成コース (SEPS-Pro)	SEPS 高校生 + *Pro 社会人	人材 育成 + 基礎 強化	育成：リーダー人材/IT(DX推進)人材 目的：高校生向け実践的IT能力育成(SEPS)、 経営基礎強化や新規事業創出につながる DX能力の育成(SEPS-Pro) 開催：課題解決型プログラミング教育、シリコン バレー連携、コンテンツ活用オンライン教育

【スタートアップ支援事業に向けた成果】

・第9回廃炉創造ロボコン

高専機構理事長賞(アイデア賞)



・令和6年度全国高等専門学校デザインコンペティション(高専デザコン)

AMデザイン部:

最優秀賞(科学技術振興機構(JST))理事長賞)

特別賞(全国高等専門学校デザインコンペティション実行委員会委員長賞)

・第18回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

シングル部門：3位入賞

・「高校生ビジネスプラン・グランプリ」ベスト100に選出

タイトル: 流せるオムツ

I-2 令和6年度学校運営方針

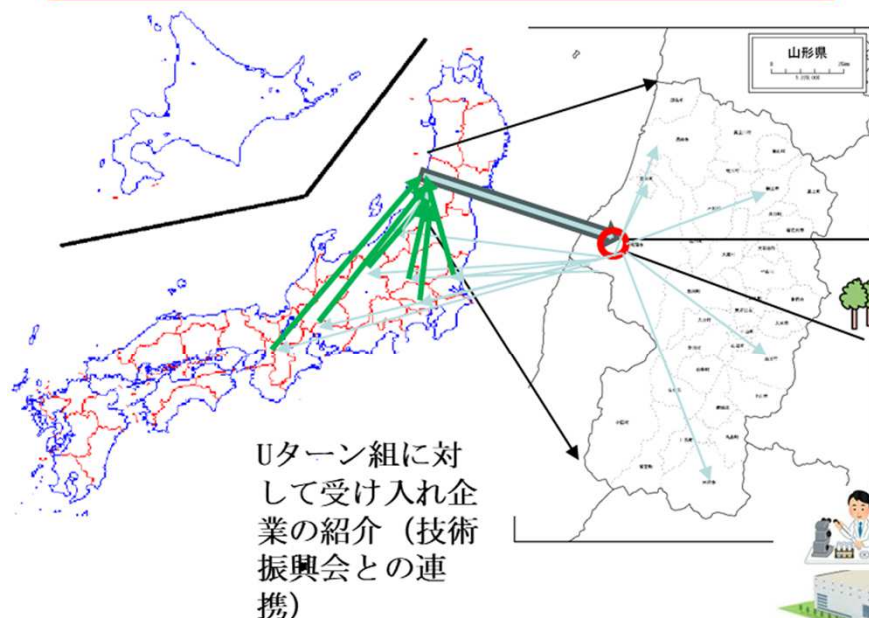
本校卒業生の地域定着率の向上に向けた対策



NIT-Tsuruoka

- ⑥ 本校卒業生のUターン希望者限定：鶴岡高専技術振興会会員企業（154社）との連携で求人情報を本校やHP等に卒業生公開して支援する

高専卒の若い技術者のUターンをサポート



求人情報提供サイトはR6年4月より公開
同窓会や本校HP、鶴岡市市役所HPを通して周知

地域社会：小・中学校との連携で高度設備を使った実習型出前講義と操作によるサイエンス・テクノロジー啓蒙活動
地域産業：共創的・共同研究、リカレント教育
海外進出企業との連携

鶴岡高専

本校の特色の強化：

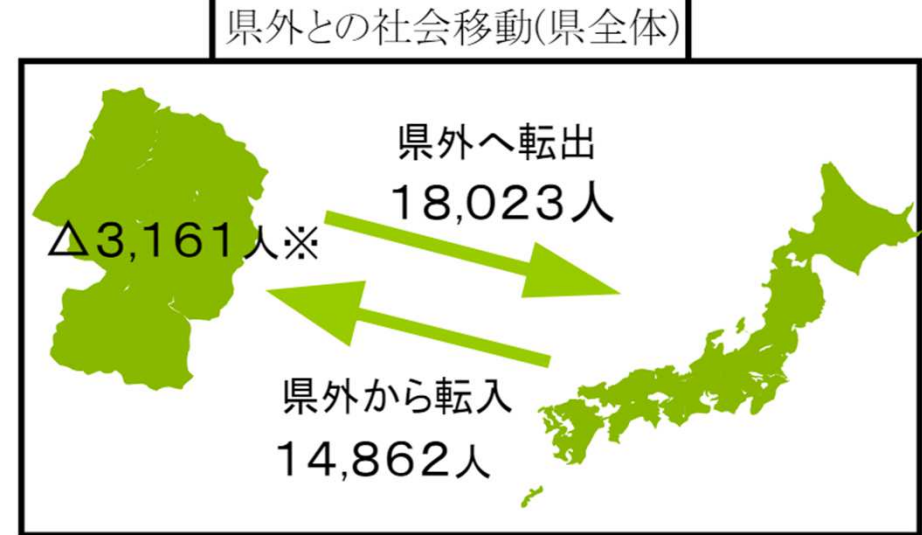
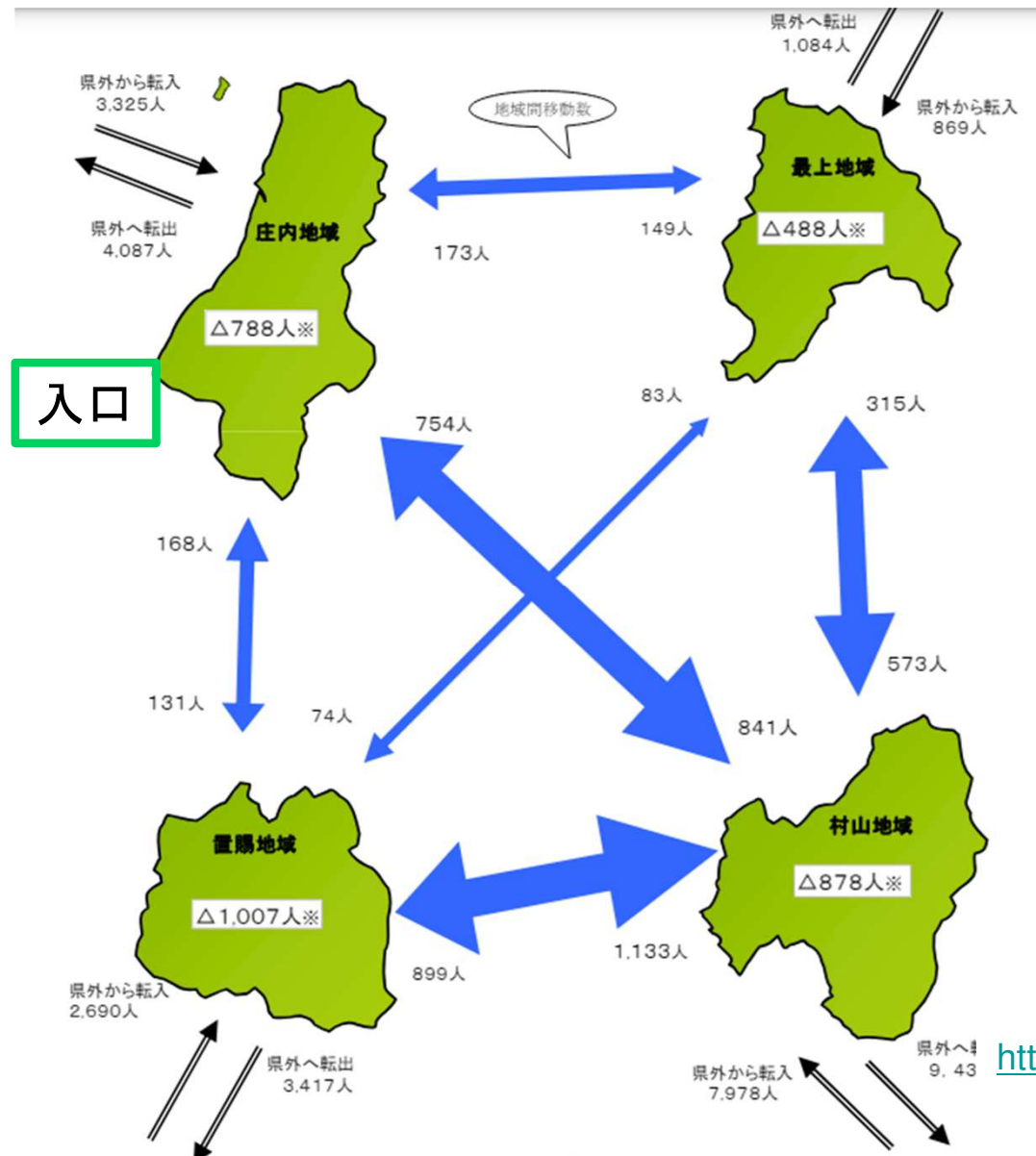
- 卒業研究・特別研究を通して学生にAI、DX、IoT技術を使った先端技術者の育成
- 高専間の高度設備の共同利用・共同研究による活性化
- 海外の高専・大学とのグローバル連携の強化



- 本校と山形大農学部、東北公益大学、荘内銀行の間で4学金連携協定を締結して地域貢献を促進することにした。
- 野村総合研究所との鶴岡高専人材育成、地域貢献に関する協定を締結（2023.09）→デジタル時代の人材育成と地域発展への貢献を推進するための連携活動

I-2 学校運営の方針

高専卒の若い技術者を地域に...必要となる根拠



※ 自地域への転入－自地域からの転出

転出超過数(総数) (= 転入者数－転出者数)

23歳: 612人

22歳: 462人

19歳: 454人

18歳: 442人

18～24歳の転出超過数: 2,481人 (3,161人中の約78%)

<https://www.pref.yamagata.jp/documents/1612/r5-all.pdf> p.22、

I-2 学校運営の方針

高専卒の若い技術者を地域に定着するための工夫

県外で働く若い技術者・
大卒・大学院卒

鶴岡高専卒業生限定、鶴岡高専技術振興会会員企業限定のUターン就職マッチングサイトの構築

鶴岡高専Uターンサイト

鶴岡高専技術振興会のWEBサイトで鶴岡高専卒業・修了生専用のUターン就職に関する情報を提供します。



2024.4.1
OPEN!
本格的な運用を
スタートします。

鶴岡高専を卒業・修了し県外に就職した方の中には、人生の節目、家庭の事情や地方での充実した生活を意識し、Uターンを考えている方が潜在的にも多いと考えられます。そこで鶴岡高専技術振興会では、地元製造業の人材確保とUターン就業者の増加を目的に、振興会の会員企業のリクルート活動支援として、会員企業の求人情報を集約し、鶴岡高専OB・OGに情報を提供するWEBサイトを新設しました。



鶴岡高専卒業生専用のUターン就職に関する情報を提供するサイトです。中途採用の求人情報や企業情報の閲覧を通じて、本校卒業生・専攻科修了生の再就職支援、会員企業への中途採用活動の支援をします。登録できるのは「鶴岡高専卒業生・修了生」「鶴岡高専技術振興会の会員企業」限定です。

鶴岡高専技術振興会 Uターンサイト <https://tks-shinkokai.jp/tks-uturn-site/>



鶴岡高専Uターンサイト

鶴岡高専卒業生・修了生の方

- 中途採用求人情報の閲覧
- 振興会会員企業の検索
- 求人企業への応募

鶴岡高専技術振興会 会員企業

- 企業情報の登録
- 中途採用求人情報の登録・編集
- スカウト機能で求職者へコンタクト

高専OB・OG 求職者リスト



求人情報一覧



ご利用いただけるのは
鶴岡高専卒業生・修了生限定です。
新規ユーザー登録をしてからご利用ください。

ご利用いただけるのは
鶴岡高専技術振興会の会員企業限定です。
新規ユーザー登録をしてからご利用ください。

高専OB・OGご利用案内



会員企業ご利用案内



鶴岡高専技術振興会

事務局 / 公益財団法人庄内地域産業振興センター内
〒997-0015 山形県鶴岡市米広町3番1号 TEL.0235-23-2200

鶴岡高専は在学学生も、卒業生も大切にする高等教育機関です!!

6/27現在 登録状況

ユーザー登録 ... 企業70社、OB・OG17名
企業情報登録 ... 公開済44件、下書き13件、
非公開1件
(実際に表示されるのは32件)
求人情報登録 ... 公開済36件、下書き13件
OB・OG求職者情報登録 ... 0件

Ⅲ 校長としての所感



NIT -Tsuruoka

令和7年度に向けた今後の課題：

- ① 中学生志願者数確保の安定化
- ② 教員の定着率向上と教員確保の推進
- ③ 混住型国際寮の運用方針の確立とグローバル化の推進、R8年度Global Camp開催に向けた準備
- ④ デジタルデザインコースの連続的運用の開始
- ⑤ 地域で働く本校卒業生のネットワーク再構築とUターン希望者の地域定着率の向上

令和7年度の行動計画：

- ① 入学者の山形県内の地域格差が大きくなっていることから、山形市、米沢市地域の中学生向けに送迎バスを運航して「一日体験入学、科学フェスタ、ものづくり体験講座」への参加者を増やすこと、中学校訪問実験、ものづくり訪問実験を実施して高専PRを展開する。
- ② 学生の研究指導結果を元に学生が海外で研究発表する指導や論文投稿を推奨する。一方、外部の研究機関との交流を深めつつ教員公募の情報提供を行いPR活動を推進する。
- ③ 国際寮内での留学生と日本人学生の交流を活性化させ、同時に海外からの短期留学生の生活の場として提供する。Global Campにおいては参加留学生等を収容できるように調整する。
- ④ 「高度情報人材育成センター(創造工学LAB)」を設立し、国内大学や企業の研究者・技術者にデジタルデザインコース学生の実習や研究指導を依頼して協同指導にあたる。地域社会における課題解決研究、各種コンテストでの発表など、デジタル技術を活用した実践的なSTEAM教育活動を実施し、高学年生が低学年生に指導する学年横断型実習などのカリキュラムを実施する。
- ⑤ 地域企業に勤務する卒業生に対して鶴岡高専技術人交流会を立上げ、地域内で活躍する卒業生間の交流を活性化しつつ、県外からのU-ターン希望者向けに情報提供を行う。加えて、R8年の国立高専教育国際標準(KIS)評価、R9年の機関別認証評価審査に向けて学内で検討・準備を始める。



資料 3

【教務関連事項について】

教務主事・総務主事 佐藤 司

1. 大学・高専機能強化支援事業の選定
2. 入学志願者の確保に向けた対策
3. 進路（進学、編入学）状況
4. 国際交流事業
5. アントレプレナー教育「高校生ビジネスプラン・グランプリ」ベスト100に選出



1. 大学・高専機能強化支援事業の選定

(成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金)



「デジタルデザインコース新設」

高度情報専門人材の確保に向けた機能強化（支援2）

支援対象：国公立の大学・高専（情報系分野が対象）

大学院段階の取組を必須

支援内容：大学の学部・研究科の定員増等に伴う体制

強化、高専の学科・コースの新設・拡充に
必要な経費

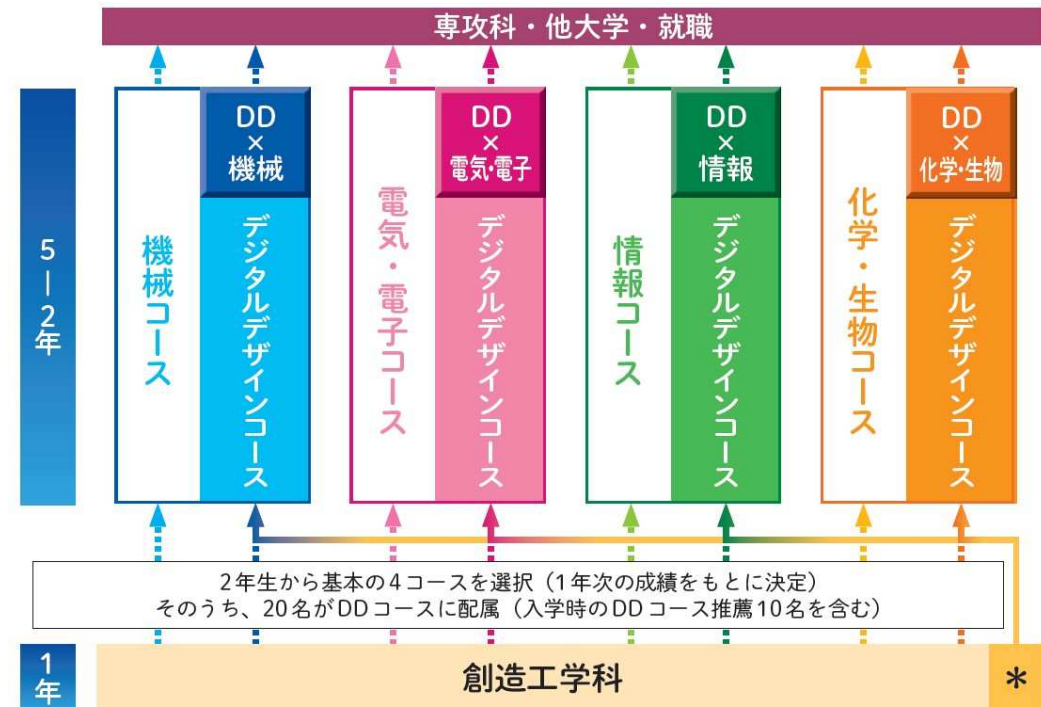
定額補助・最長10年支援



機械、電気・電子、情報、化学・生物コースの各分野の専門性に加え、高度情報技術を身につけた人材を社会に輩出するため、「デジタルデザインコース」を令和7年度に開設します。時代のニーズに合わせた即戦力人材育成に向けて、タブレット端末を用いた授業など実践的なカリキュラムを提供します。

令和7年度入学生から新コース体制に NIT-Tsuruoka

～デジタルデザインコースが新設されます～



*デジタルデザインコース推薦入学（10名）

全コースで情報系教育プログラム（データサイエンスやAI）を強化

※入試方法の詳細については、10月公開予定の学生募集要項をご確認ください。

- ・入学時に推薦10名が先行してデジタルデザインコースに配属されます。
- ・20年進級時に20名（推薦10名を含む）が基本4コースのいずれかを選択してデジタルデザインコースに配属されます。
- ・基本コースの「専門知識×デジタル」の実践的なデザイン・製作・解析技術を身につけます。

コースの募集人員

デジタルデザインコース20人

情報コース40人

機械コース、電気・電子コース及び化学・生物コースの合計で100人

1. 大学・高専機能強化支援事業の選定

(成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金)



NIT - Tsuruoka

新たに導入された科目

「デジタルデザイン実践工学」(2単位×4年)

DX技術を主軸とした地域社会の課題解決研究

教員、アドバイザー等とともに実施

学会発表、コンテスト発表

「デジタルデザイン応用工学」(1単位×3年)

AI、ビッグデータ活用によるビジネスプランを学ぶ

「総合デジタルデザイン工学」(1単位×3年)

データサイエンススキルの獲得問題解決プロセスの体得

「専門分野×デジタルデザイン」(3～4単位×3年)

カリキュラム内容の一例

機械系 : ロボット、機械システム、デジタルものづくり

電気・電子系 : パワーエレクトロニクス、エネルギーインフォマティクス

情報系 : AI機械学習によるデータ処理、

化学・生物系 : マテリアル・バイオインフォマティクス

教育、研究、国際化、地域連携のより一層の推進等を目指すため、外部人材の活用を図る。優れた知識及び経験を有するエグゼクティブ・アドバイザーとして慶應義塾大学名誉教授 富田勝 氏の助言を頂く。ほか、研究支援のためのアドバイザーとして株式会社トポス代表取締役社長櫻田剛史 氏と連携を進めている。

2. 入学志願者の確保に向けた対策

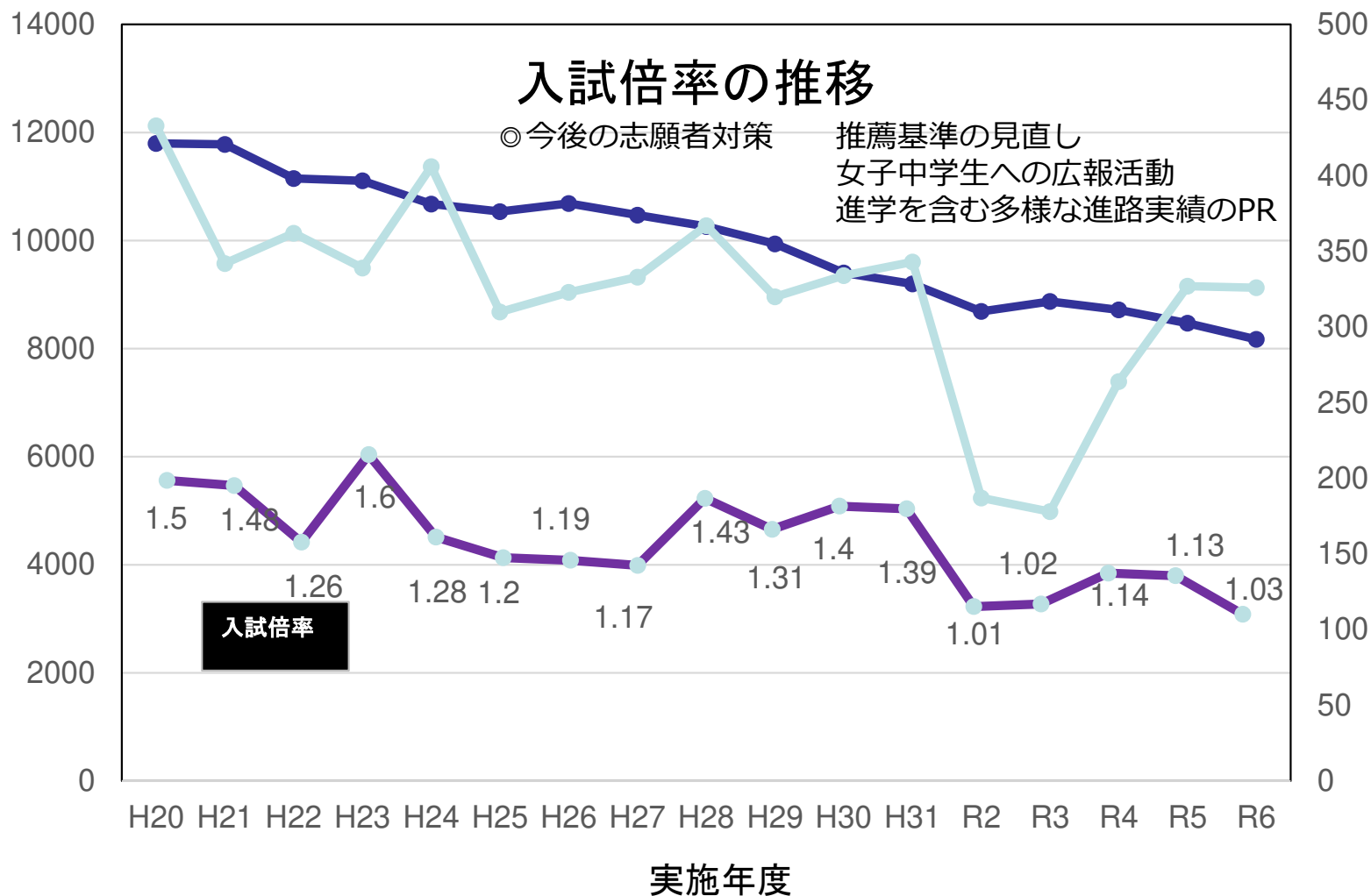


NIT -Tsuruoka

校長、副校長、志願者対策委員会、情報広報室、地域連携センター、その他必要と認める教職員を含め総合的な取り組みを展開

- ・ 中学校訪問（県内93校）
- ・ 入試説明会／学校説明会（鶴岡、酒田、山形、新庄、米沢）
- ・ YouTube動画、公式Twitterの配信
- ・ 中学校への配布資料(College Profile 学生の様子や寮生活の様子、入試問題集)
- ・ 校長の中学校訪問
- ・ 中学生1日体験入学の年2回開催（参加生徒数は延326名保護者含めて680名、学寮ツアー実施、山形・米沢方面無料送迎バス用意）
- ・ 科学フェスタ実施（来場者数は小中学生294名保護者258名）
- ・ 中学校訪問理科実験（訪問校延べ12校、生徒数542名）

2. 入学志願者の確保に向けた対策



R7年度入試状況（志願者倍率1.03倍）

推薦選抜	: 志願者63名（うちデジタルデザインコースは28名）	R6年度入試より7名減（女子3名減）
帰国生徒等別選抜	: 1名	
学力選抜	: 93名	16名減（ 11名減）
二次募集	: 7名	

3. 進路（進学、編入学）状況



NIT - Tsuruoka

専攻科進学

（令和7年1月31日現在）

鶴岡工業高等専門学校 専攻科

大学編入学

長岡技術科学大学
豊橋技術科学大学
北見工業大学
弘前大学
山形大学
筑波大学
東京農工大学
千葉大学
群馬大学
新潟大学
名古屋大学
島根大学

専攻科から大学院入学

東京科学大学大学院
電気通信大学大学院
筑波大学大学院
埼玉大学院大学
新潟大学大学院

専門学校入学

名古屋ビジュアルアーツアカデミー

専攻科進学	17名
大学編入学	31名
大学院進学	5名
専門学校入学	1名
計	54名

3. 進路（進学、編入学）状況



進学指導に関するガイダンスや説明会

NIT - Tsuruoka

◆進学ガイダンス（年1回）

令和6年4月8日（月）11：00-12：00（視聴覚室）

○趣旨：進学を希望する本科5年生・専攻科2年生を対象に、出願手続き・近年の進学状況・専攻科について等の情報を提供し、進学先選択の参考にしてもらう。

○説明者：教務主事、専攻科長、教務係

◆進路指導（年3回）

○趣旨：進路選択を間近に控えた本科4年生・専攻科1年生に対し、進学及び就職に関する情報を提供し進路選択に対する意識を高めてもらう。

○説明者：進路の選択について 教務主事、専攻科進学について 専攻科長、就職斡旋の方針について 進路指導委員長

◆大学個別説明会（各会60～90分程度）

○R6実績：東京科学大学・大学院 12月2日（月）7名参加、対面

豊橋技科大学・大学院 12月16日（月）3名参加、オンライン

長岡技科大学・大学院 1月16日（木）6名参加、対面

4. 国際交流事業



NIT - Tsuruoka

(1) 2024年度 海外派遣実績/派遣予定

夏季休業中に以下の海外研修および海外研究派遣を実施しました。
春季休業中にも、シンガポール研修やニュージーランド研修等を予定しています。

夏季

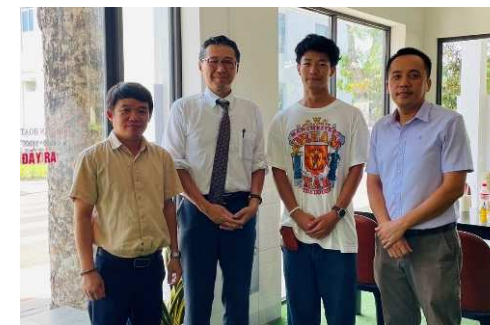
国	期間	研修場所(内容)	人数
台湾	8/21-8/24	スタディツアー	8名
マレーシア	8/17-8/31	豊橋技科大ペナン拠点(研修)	2名
ベトナム	8/27-9/18	ダナン工科大学(研究)	1名
ベトナム	9/3-9/9	フエ工業短期大学(研修)	2名



夏季台湾スタディツアー

春季(予定)

国	期間	研修場所(内容)	人数
シンガポール	2/16-3/23	テマセクポリテクニク(研究)	1名
シンガポール	3/3-3/17	テマセクポリテクニク(研修)	28名
ニュージーランド	2/28-3/14	語学学校(研修)	15名
フランス	2/19-3/30	ベティーヌ技術短期大学(研究)	1名
ラトビア	2/27-3/13	ラトビア大学(研修)	1名



夏季ベトナム研究派遣

(2) タイ王国との交流事業 (2024年度実績)

◆短期留学生の受入と派遣 実績なし

なお、2025年度はKMITL（キングモンクット工科大学）より1名受入予定（5月～6月）

「日本型高等専門学校の教育制度(KOSEN)」を本格的に導入したタイ王国初の高専が開校。高専機構は円借款事業に基づき教育や運営面で支援実施中。

鶴岡高専を含むプロジェクト推進校が日本への学生受け入れや教材作成などの支援を実施のほか、タイ高専の設置運営支援のため、教員を派遣予定。

◆長期留学生の受入 KMITLより編入学生（長期留学生）を1名受入

◆表敬訪問（12月）

- ・チュラーロンコーン大学へ本校教員及び特命教授 訪問
→Material Scienceとの連携について検討
- ・Spiber株式会社のタイ工場（ラヨーン市）視察

(3) グローバルエンジニア育成事業

高専生のコミュニケーション能力を涵養し、さらにグローバル環境下で専門知識・スキルを活用し協働して課題解決に取り組むことができる人財としてグローバルエンジニアを養成し、産業界のニーズに的確に応え、広く社会に貢献する。(令和6～10年度)

本校で実施する事業名

「グローバル環境下で活躍できる人材育成のために語学力を備えた課題解決能力の向上」

- ・課題解決能力とコミュニケーション能力の涵養
- ・一般科目を含む基礎科目と専門科目の英語による授業
- ・英語を駆使した課題解決力向上

特命教授(長岡技術科学大学名誉教授 小林高臣 氏)を雇用し、グローバルエンジニア育成事業の実施に関する全体的な指導助言を頂いている他、海外教育機関とのコーディネート業務を実施。

高専機構本部に報告する成果指標

- ・各学年毎のTOEIC平均スコア
- ・海外活動参加経験を有する学生比率
- ・英語による授業科目数
- ・常勤教員の平均TOEICスコア

5. アントレプレナー教育 「高校生ビジネスプラン・グランプリ」ベスト100に選出



NIT - Tsuruoka

3年生が受講する「総合工学III」において、知的財産、起業、デジタル化社会におけるビジネスの変化など技術者として必要な素養を学んでいる。グループディスカッションを取り入れる事で、コミュニケーション力、発言力、思考力を総合的に育む。授業の中で高校生ビジネスプラン・グランプリへの提案を目指した商品化活動を行っている。

第12回高校生ビジネスプラン・グランプリにおいて、本校学生チームのプラン「流せるオムツ」が「ベスト100」に選出され、2024年12月16日（月）に主催者である株式会社日本政策金融公庫による表彰式が本校で行われた。「ベスト100」は、全国の応募プランの中で高い評価を得た優秀なプランに贈られるもので、今回は過去最多となる応募総数5,151件（536校）の中からの選出となった。

商品説明

布オムツ



マジックテープ
&
ゴムで密着
→シートを
ずれさせない

サイズ調節可
→成長しても履き続けれる



試作実験

流せるシート・新しい吸水剤

実験方法

①



試料をそれぞれ
約2.00gずつ
ティーパックに
入れた。

②



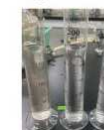
①の試料を
イオン交換水で
入れたビーカー
にそれぞれ
10分間静置した。

③



ティーパックを
引き上げて
ビーカー上で
3分間静置した。

④



イオン交換水の残量
をメスシリンダー
で量り、吸水率を
計算した。

【受賞プラン概要】

タイトル：流せるオムツ

「公共トイレにオムツのゴミ箱がなく、外出時のオムツ処理が大変」という課題に着目、地域の中で廃棄されているおからと水溶性不織布を原料とした吸水シートや防水機能のある布オムツを開発。使用時は汚れた吸水シートだけトイレに流すことで、ゴミの削減が可能。地域資源の再利用と削減と子育て世帯の課題解決に貢献するプラン。





資料4－1

【学生関連事項について】

学生主事 渡部 誠二



【生活に関する指導】

- ・校内および学校周辺の巡回
- ・交通安全指導（自転車・バイク車体検査／街頭指導／交通講話）
- ・山形県警察本部サイバースキル講座
- ・鶴岡警察署生活指導講演会
- ・いじめアンケートの実施（年４回）
- ・スクールロイヤー講演会
- ・いのちに関する講演会
- ・ころろといのちの講演会（自殺予防講演会）
- ・問題行動に対する速やかな対応

（いじめ防止等対策委員会／学生委員会／保健センター／リスク管理室との連携）

【進路に関する指導】

- ・４年生進路指導
- ・５年生進学ガイダンス

学生支援の取り組み (2)



NIT -Tsuruoka

保健センター／相談室で心身の健康をサポート

- ・学業、将来の不安、対人関係、こころの悩みなど、
一緒に考えながら、解決策を見つけ出していきます
- ・学生が相談しやすい相談方法を整備
 - ・対面相談、電話相談、メール相談、オンライン相談
- ・アンケート調査等で不安感が見られる学生
 - ・面談を推奨し、見守りやサポートを継続的に実施
- ・専門のカウンセラーとの相談体制
 - ・精神科医 月1回(要予約)
 - ・特別支援教育士 週1回 月曜日
 - ・スクールカウンセラー(対面相談・オンライン相談)
 - 対面: 週1回 火曜日(要予約)
 - オンライン: 週2回 水曜日、木曜日(要予約)
 - ・スクールソーシャルワーカー 週2回 火曜日、木曜日
 - ・教育相談員 週1回 金曜日
- ・保護者からの学生に関する相談も受け付けています
- ・障がい等を持つ学生への適切な支援を提案します



- 就職情報（求人情報）のwebシステムでの公開
- 進路指導の実施（6月、10月、12月）
- 企業研究セミナーの実施
（令和6年度12月7日（土）実施、160社）
- 外部講師による履歴書の書き方
面接についての講習会の実施
- 面接の練習（学生係で受け付けている）
- 学校指定の履歴書を作成

学生支援の取り組み（4）



NIT - Tsuruoka

- ・**企業研究セミナー**（令和6年12月7日実施、 第一体育館）

午前：80社、 午後：80社、 計160社が参加

- ・事前予約システムの導入



キャリア教育

CO-OP教育実習での企業就業体験を通して、普段の学習内容がどのような形で実際の現場で役立てられているかを自覚させる取り組みを行っている。

【実績】

R6年度夏	5社	8名
R5年度春	4社	4名
R5年度夏	10社	20名
R4年度春	5社	9名

【報告会風景】

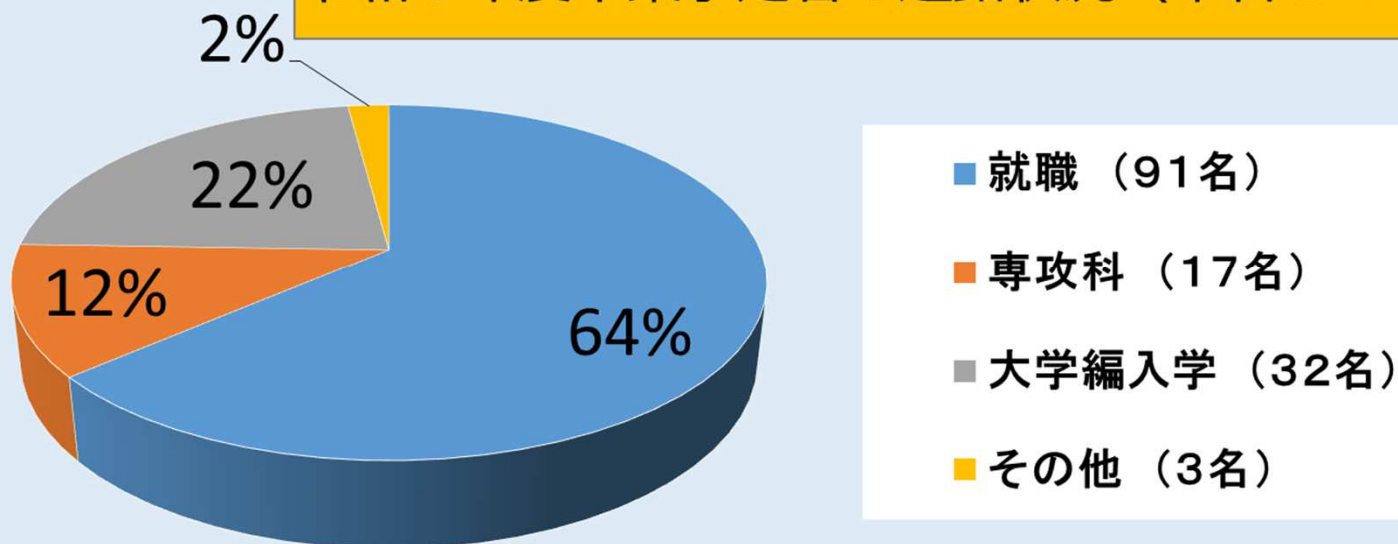


令和7年3月 卒業予定者進路状況(本科全体の状況)



NIT -Tsuruoka

令和6年度卒業予定者の進路状況(本科143名)



本科求人倍率

令和4年度 10.5倍
令和5年度 12.0倍
令和6年度 12.0倍
(R7.1月現在)

専攻科求人倍率

令和4年度 52.2倍
令和5年度 65.8倍
令和6年度 52.0倍
(R7.1月現在)

令和6年度求人倍率(R7.1月現在) ()内は令和5年度の数字

機械コース	16.2倍	(12.7倍)
電気・電子コース	15.0倍	(11.3倍)
情報コース	10.6倍	(11.6倍)
化学・生物コース	8.2倍	(12.8倍)
専攻科	52.0倍	(65.8倍)

多くの企業より面談希望が入っており、高専生の採用に意欲的です

(令和5年度最終求人社数 782社、R7.1月現在776社)



令和6年度全国高専体育大会結果

テニス：女子団体戦3位， 男子シングルス3位，
女子シングルス2位， 女子ダブルス3位

柔 道：女子個人戦無差別級3位

バドミントン：男子団体戦3位， 男子シングルス3位， 男子ダブルス3位

陸上競技：男子3000mSC3位， 女子走高跳2位

第9回廃炉創造ロボコン

高専機構理事長賞(アイディア賞)

令和6年度全国高等専門学校デザインコンペティション(高専デザコン)

AMデザイン部：

最優秀賞(科学技術振興機構(JST))理事長賞)

特別賞(全国高等専門学校デザインコンペティション実行委員会委員長賞)

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024東北地区大会
昨年に続き2年連続の全国大会出場

第18回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト
シングル部門： 3位入賞

「高校生ビジネスプラン・グランプリ」ベスト100に選出
タイトル: 流せるオムツ



- ① 入学式: 4/6(土)
- ② 学生会総会: 5/15(水)
- ③ 校内体育大会: 5/22(水)
- ④ 前期中間試験(1~3年生): 6/12(水)~14(金)
- ⑤ 前期末試験(1~3年生): 9/24(火)~27(金)
夏季休業: 7/27(土)~9/1(日)
- ⑥ 防災訓練: 10/9(水)
- ⑦ 高専祭: 10/25(金)~26(土)
- ⑧ 4年生工場見学: 11/5(火)~8(金)
- ⑨ 後期中間試験(1~3年生): 11/27(水)~29(金)
冬季休業: 12/21(土)~1/5(日)
- ⑩ 学年末試験(1~3年生): 2/13(木)~18(火)
学年末休業: 2/22(土)~
- ⑪ 卒業式: 3/19(水)

- ① 東北地区高専体育大会: 7/5(金)~7/7(日)
- ② 全国高専体育大会: 8月下旬~9月上旬
- ③ 東北地区高専ラグビー大会: 10/18(金)~22(火) 八戸高専主管
- ④ プログラミングコンテスト本選: 10/19(土)~20(日) 奈良高専主管
- ⑤ **ロボコン東北地区大会: 10/20(日) 藤島体育館 鶴岡高専主管**
- ⑥ デザコン本選: 11/2(土)~3(日) 阿南高専主管
- ⑦ ロボコン全国大会: 11/17(日)
- ⑧ ラグビー全国大会: 1/4(土)~9(木) 神戸高専主管
- ⑨ 第18回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト: 1/25(土)~26(日)

オリンピック記念センター、高知高専主管



- ① 春季高校野球庄内地区予選 : 4／下旬～5／上旬
- ② 庄内地区高校総体大会 : 5／中旬
- ③ 春季高校野球山形県大会 : 5／中旬
- ④ 山形県高校総体 : 6／上旬
- ⑤ 高校野球選手権大会山形大会 : 7／中旬
- ⑥ 秋季高校野球庄内地区大会 : 8／下旬～9／上旬
- ⑦ 庄内地区高校新人体育大会 : 9／中旬
- ⑧ 山形県高校新人体育大会 : 10／上旬～11／上旬





資料4－1

【就職関係／補足資料】

学生主事 渡部 誠二



R6 就職状況(本科5年生)

卒業予定者進路状況

(令和7年2月28日現在)

コース名	卒業 予定者数	就職 希望者数	就職 内定者数	就職内定者数内訳					
				県内	(うち 新庄・最上)	(うち 山形・村山)	(うち 米沢・置賜)	(うち 庄内地区)	県外
機械	(4) 25	(2) 18	(2) 18	(0) 6	(0) 0	(0) 3	(0) 0	(0) 3	(2) 12
電気・電子	(2) 35	(2) 21	(2) 21	(0) 5	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 4	(2) 16
情報	(10) 40	(7) 27	(7) 27	(1) 1	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(6) 26
化学・生物	(10) 43	(7) 27	(7) 25	(2) 3	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(2) 3	(5) 22
合計	(26) 143	(18) 93	(18) 91	(3) 15	(0) 1	(1) 4	(0) 0	(1) 9	(15) 76

() は女子で内数

R6 就職状況(専攻科)

修了予定者進路状況

(令和7年2月28日現在)

専攻名	修了 予定者数	就職 希望者数	就職 内定者数	就職内定者数内訳		
				県内	(うち庄内地区)	県外
機械・制御コース	(0) 3	(0) 2	(0) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 2
電気電子・情報コース	(1) 12	(1) 9	(1) 9	(0) 1	(0) 0	(1) 8
応用化学コース	(3) 4	(2) 3	(2) 3	(0) 1	(0) 1	(2) 2
合 計	(4) 19	(3) 14	(3) 14	(0) 2	(0) 1	(3) 12

() は女子で内数

R6 就職内定先一覧(本科5年生・専攻科)

就職内定先一覧

(令和7年2月28日現在)



コース名						コース名					
会社名	機	電	情	化	専	会社名	機	電	情	化	専
	械	気	報	学	攻		械	気	報	学	攻
		電		生	科			電		生	科
		子		物	計			子		物	計
【建設業】						【輸送用機械】					
水ing(株)		1			1	(株) 片桐製作所	1				1
成友興業(株)				1	1	(株) IALエンジニアリング				1	1
レイズネクスト(株)		1			1	トヨタ自動車東日本(株)		1			1
【食料品】						【精密機械】					
森永製菓(株)				1	1	オリエンタルモーター(株) 鶴岡カンパニー		1			1
(株) ヤクルト本社福島工場				1	1	デルモ(株)				1	1
理研ビタミン(株)			1		1	東北エプソン(株)	1	1		1	4
【卸・小売業】						(株) ニコン			2		2
アマゾンジャパン合同会社			2		2	【通信運輸業】					
キヤノンマーケティングジャパン(株)			1		1	(株) NTTロジスコ		1			1
【繊維】						【電気・ガス・水道】					
旭化成(株)				1	1	東京ガスネットワーク(株)				1	1
東レ(株)				1	1	東京電力ホールディングス(株)		1			1
【化学工業】						東北電力(株)		1		1	2
天野エンザイム(株)					1	【その他】					
(株) NBCメッシュテック			1		1	AGC(株) 相模工場		1			1
大阪有機化学工業(株)				1	1	OKIサーキットテクノロジー(株)	1	1			2
(株) クレハ				1	1	グリコマニュファクチャリングジャパン(株)	1				1
INC石油化学(株) 市原製造所				1	1	日本ゼオン(株) 川崎工場				1	1
住友精化(株)				1	1	【サービス(情報処理関係含)】					
第一三共ケミカルファーマ(株)				3	3	(株) アイ・エス・ピー			1		1
中外製薬工業(株)				1	1	(株) AGEST			1		2
日本化学産業(株)				1	1	(株) アビリカ		1			1
長谷川香料(株)				1	1	(株) イシダ			1		1
ヒューマン・メタボローム・テクノロジーーズ				1	1	(株) エスユーエス			1		1
ベーリンガーインゲルハイム製薬(株)	2				2	NRIネットコム(株)				1	1
丸善石油化学(株) 千葉工場				1	1	NECプラントエンジニアリング(株)		1			2
ミヨシ油脂(株)			1		1	NTTコミュニケーションズグループ			1		1
(株) レゾナック 先端融合研究所				1	1	(株) エヌ・ティ・ティエムイー		1	1		2
【石油製品】						(株) クレスコ・ネクシオ			1		1
ENEOS(株)				1	1	(株) ジェイ・クリエーション			1		1
東亜石油(株)				1	1	SOLIZE(株)			1		1
(株) LIXIL(千葉)	1				1	第一工業(株)				1	1
【機械】						(株) タマディック	1				1
SMC(株)					1	(株) DSR			1		1
(株) 京都製作所	1				1	デコム(株)			1		2
(株) クボタ		1			1	東京エレクトロングループ		1	1		2
(株) 斎藤農機製作所	1				1	トーテックアメニティ(株)					1
三木ブーリ(株)	1				1	日本空港テクノ(株)					1
山形航空電子(株)		1			1	(株) ネットブレインズ			1		1
【鉄鋼業】						パーソルクロステクノロジー(株)			1		1
東京製鐵(株)	1				1	(株) ハイマックス			1		1
【金属】						(株) 半導体エネルギー研究所			1		1
(株) フジキン	1				1	(株) ヒロエンジニアリング		1			1
【電子・電機】						富士フイルムメディカル(株)			1		1
アズビル(株)		1			1	三菱電機ビルソリューションズ(株)	2				2
GEヘルスケア・ジャパン(株)	1				1	(株) ラック			1		1
(株) IVCケンウッド山形		1			1	(株) YCC情報システム			1		1
(株) SCREEN SPEサービス	1				1	【公務員】					
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング		1	1		2	酒田市役所				1	1
(株) デンソーFA山形					1						
三菱電機(株) 名古屋製作所	1				1						



資料4－2

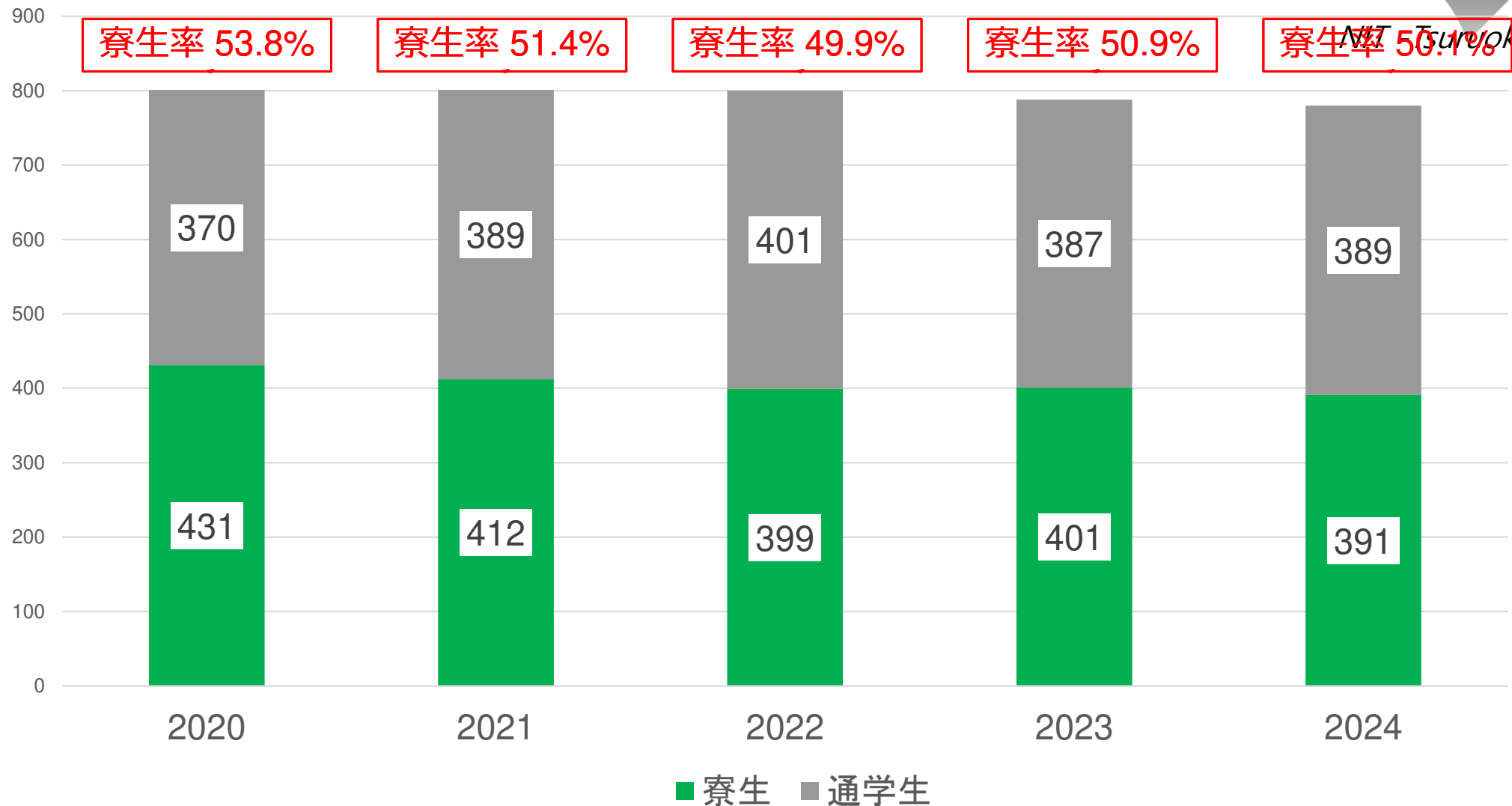
【寮務関連事項について】

寮務主事 山田充昭



学生寮関連①

寮生・通学生数比較（2020～2024）



他高専に比べて寮生が多いです。

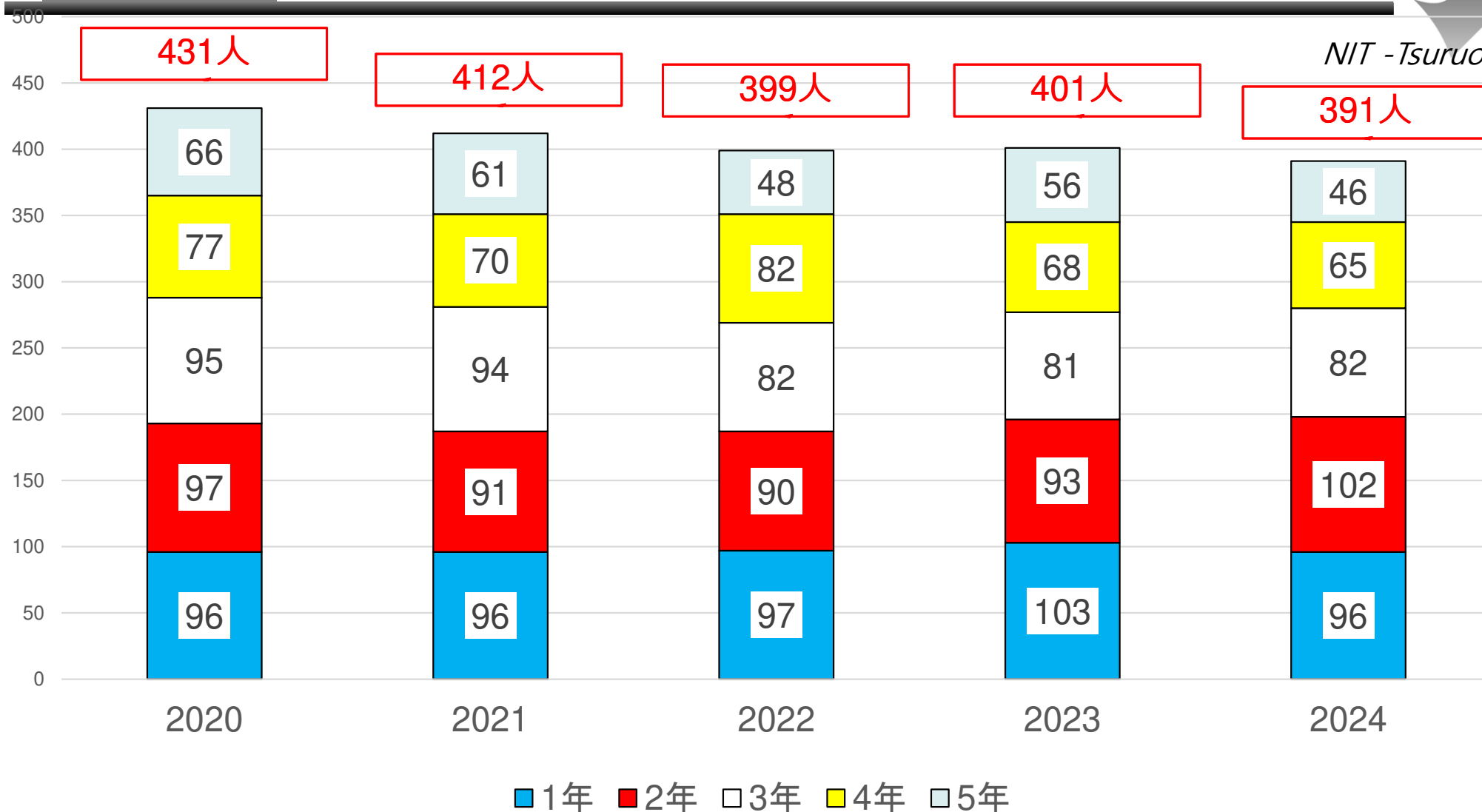
- ・寮がなければ学校生活を継続することができない学生
- ・寮に馴染めなくて、退寮したくてしかたない学生
- ・鶴岡高専は学寮がなければ成り立ちません。

学生寮関連②

学年別寮生数（2020～2024）



NIT - Tsuruoka



1,2年生の希望を優先的し、3年生以上を入寮選考の対象とするスタイルで入寮者をうけいれてい
ます。

低学年が多いですが、3年生以上も相当数が学寮生活を送っています。

■学寮運営の基本

• 生活寮として

○学生たちが安心してより快適に生活のできる場

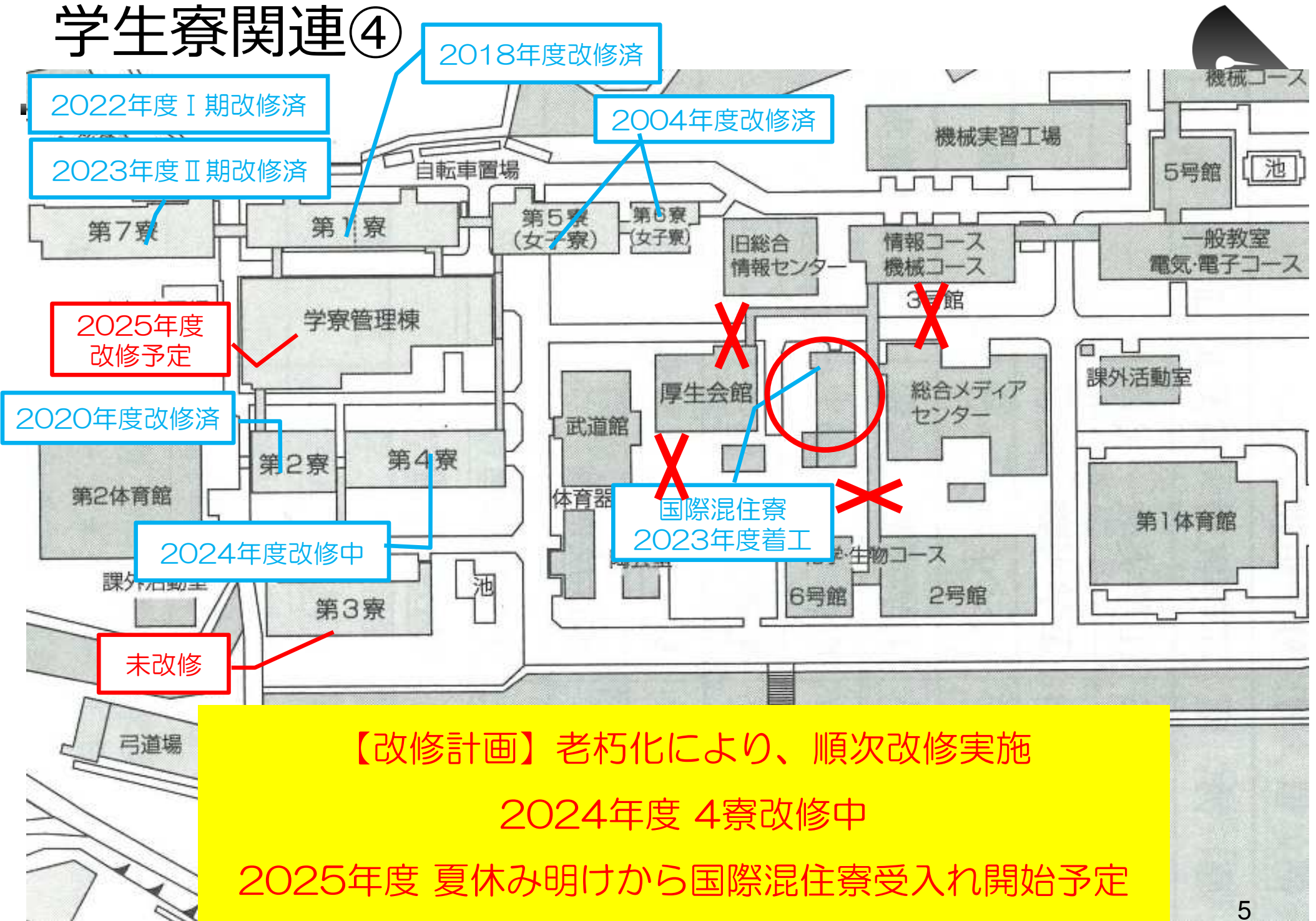
- ⇒ 指導寮生による、低学年（1,2年生）寮生への指導・相談体制
- ⇒ 宿日直教員・寮監による生活支援
- ⇒ 避難訓練や居室点検を通して寛容される防災・防犯意識
- ⇒ 寮生会が企画運営する、レクリエーションイベント

• 教育寮として

○社会生活上のモラルやマナーなどについて学ぶ場

- ⇒ 居室の共有（低学年は2,3名で1室）
- ⇒ 食堂や浴場、自習室・娯楽室等の共有
- ⇒ 一定のタイムテーブルに沿った生活

学生寮関連④



【改修計画】老朽化により、順次改修実施

2024年度 4寮改修中

2025年度 夏休み明けから国際混住寮受入れ開始予定

2025年度 夏休み明けから管理棟改修開始予定

学生寮関連⑤



NIT - Tsuruoka

- ・新入寮生入寮（4/5）
- ・寮生クリーン作戦（4/21）：地元町内会と協力して清掃活動
- ・寮生会総会（前期4/17、後期1/23）
- ・寮生避難訓練（前期 5/8、後期 10/3）
- ・寮祭（5/22）
- ・寮生体育大会（10/2、12/17）
- ・映画鑑賞会（12/9、12/10）
- ・バレンタイン企画（2月中）
- ・その他、
寮生会企画イベント



寮祭



新入寮生入寮
オリエンテーション



資料 5

【財務基盤及び管理運営について】

事務部長 佐藤 俊次





【財務基盤】



■ 運営費交付金の現状

- 高専機構からの各高専への当初予算配分については、既定分の管理運営費を△3%削減して配分。
- 鶴岡高専への当初予算配分額（常勤人件費を除く）
 - ・ 当初予算配分額：前年度から約8百万円減額（給与の増額改定及び光熱費の高騰に備えた機構本部における一時留保）

⇒ **約2億4千万円** (R6年度)

■ 当初予算への反映（毎年度予算配分方針を定め、4区分に分類して配分）

- 共通経費（光熱水費、施設維持費等）は事項別に過年度実績△10～30%削減、業務委託費等は所要額（約11,200万円）
- 教育・研究経費は事項別に前年度同額、又は所要額△15%削減（約8,300万円）
- 教育研究支援経費（教育・研究を支援するための運営費等）は所要額△15%削減（約1,500万円）
- 一般管理費（事務費、環境整備費、広報活動費等）の所要額△15%削減、事務費は過年度実績△38%削減（約3,000万円）

■ 予算削減のための対応

- 事業の縮小や見直しによる改廃により対応
- 業務の効率化により対応
 - ・ **他高専と共同調達し契約事務の節減**（奈良高専を主担当に本校を含む全7高専で共同調達・契約）
- 競争性を確保した契約の推進
 - ・ **複数年契約**による経費節減・業務軽減
- 競争的資金などの外部資金の積極的獲得に向けた取り組み
 - ・ **「科研費セミナー」の実施(46名参加)**（京都大学教授を講師として招聘）
 - ・ **産学官連携活動の報奨制度**（R3年度制定 間接経費の総額が35万円以上の場合に、間接経費の3%を支給。）

■ 削減して留保した当初予算の主な使途

- 共通経費のうち、光熱水費(電気・ガス・水道)は、**使用量ベースで前年度比△1.0%削減**を目標設定。

しかしながら、**昨今の燃料費高騰**を受けて**執行額が大幅に増加**している。
(高専機構配分額)

R6年度(当初) 約7,200万円

R5年度(当初) 約7,600万円+(追加)100万円=約7,700万円

R4年度(当初) 約5,000万円+(追加)800万円+(追加)197万円=約6,000万円

特別教育研究経費

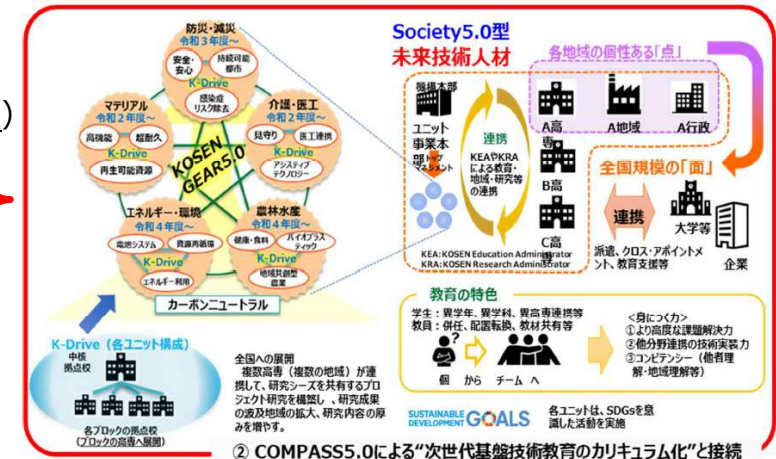


NIT -Tsuruoka

■ GEAR 5.0 及び COMPASS 5.0 による Society 5.0 時代に即した新たな高専高度化モデル事業の推進

○ GEAR 5.0 (R6 7,881千円) (R5 18,977千円) (高専の高度な研究と社会実装を通して、優れた技術を持つ人材を育てる事業)

- ・ マテリアル分野：2,857千円 (2020.04～)
中核拠点校 鈴鹿、協力校 **鶴岡**、小山、呉、大分
- ・ 防災・減災 (防疫) 分野：5,024千円 (2021.04～)
中核拠点校 沖縄、協力校 **鶴岡**、長岡、和歌山、宇部、新居浜



■ 高専高度化推進経費 (R6 7,755千円)

(各高専のニーズに応じた機動的な取組を推進するための経費)

- 学校改善事業 (2,200千円)
 - ・ 質の高い学生確保と入学後のフォローが見える化するDX活動 (前年度の発展継続)
- 教職員の働き方改革に向けた取組 (4,555千円)
 - ・ 学生寮業務、課外活動指導員、非常勤看護師の person 費補助
- 学生の教育研究環境の充実 (1,000千円)
 - ・ 什器や厨房設備更新
- 誰ひとり取り残さない学びの環境の充実 (R6 2,408千円)
 - ・ カウンセラー、ソーシャルワーカーの配置
- グローバルエンジニア育成事業 (R6 4,000千円)
 - ・ 高専生海外活動支援事業 * 新設

■ 科学研究費助成事業（科研費）（研究分担者分を含む、R6年度）

（科研費の取得推移：R6年度・約22,565千円、R5年度・約41,583千円、R4年度・約36,425千円）

○継続課題 14件 計：18,330千円

・ イオンブラシと微粒子の複合ハイブリッド構造を有する超低摩擦摺動システムの創製 ほか

○新規課題 7件 計：4,235千円

・ STEAM教育と融合したエンジニアリング・デザイン教育の開発と実践的研究 ほか

■ 政府系外部資金（主なもの）

○国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST） 18,252千円

- ・ 戦略的創造研究推進事業(CREST：超低摩擦ポリマーブラシの摩耗現象の階層的理解と制御)(13,650千円)
- ・ 大学発新産業創出基金事業 (MASP：みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム)(3,601千円)
- ・ 研究成果展開事業(COI-NEXT：“コメどころ”新潟地域共創による資源完全循環型バイオコミュニティ拠点に関する独立行政法人国立高等専門学校機構鶴岡工業高等専門学校による研究開発)(1,001千円)

○国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO） 11,000千円

- ・ カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発（2,000千円）
- ・ イオン液体構造を有するアイオノマーによる革新的低白金技術の研究開発（9,000千円）

○独立行政法人 環境再生保全機構（ERCA） 13,000千円

- ・ 環境研究総合推進費（省エネ・低環境負荷を実現する次世代船底塗膜ならびに塗工プロセスの開発）

■ 寄附金（主なもの）

○公益財団法人発酵研究所 5,000千円

- ・ 研究室助成（バイオポリマーの海洋生分解メカニズムの解明と若手研究者育成のための研究室間連携の強化）

○K-ARC拠点化推進協議会 1,916千円

- ・ K-ARC(高専応用科学研究センター)の機能強化と広域的拠点化を推進するため

《令和2年度》

- ・機械実習工場トイレ改修（補正予算）（女子トイレ新設）
- ・構内ネットワーク改修工事（GIGAスクール構想）
- ・第2体育館床改修工事（営繕事業）

《令和3年度》

- ・テクノセンター等空調設備改修工事（営繕事業）（老朽空調更新）
- ・寄宿舍第7寮改修工事（Ⅰ期・西側）（補正予算）
- ・学習・交流ラウンジ整備（寄附金）

《令和4年度》

- ・総合メディアセンター1階デジタルサロン整備（寄附金）
- ・混住型学生寮（国際寮）新営工事（補正予算）
- ・寄宿舍第7寮改修工事（Ⅱ期・東側）（補正予算）

《令和5年度》

- ・総合メディアセンター屋上防水改修工事、構内サイン計画（営繕事業）
- ・寄宿舍第4寮改修（補正予算） ※令和7年3月完成予定

《令和6年度》

- ・**混住型学生寮（国際寮）新営工事（令和4年度補正予算）**
※令和7年3月完成予定
- ・寄宿舍管理棟改修（補正予算）《令和7年度概算要求
⇒ 令和6年度補正予算（前倒し）》

《令和7年度》

- ・令和8年度概算要求として、寄宿舍第3寮改修、校舎4号館改修の2件を要求予定
- ・令和6年度大学・高専機能強化支援事業により、新校舎（9号館）を新築予定



混住型学生寮（国際寮）パース図1



混住型学生寮（国際寮）パース図2

事業への申請

■「令和6年度大学・高専機能強化支援事業」

○独立行政法人大学改革支援・学位授与機構

支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援

助成金総額 758,190千円（初年度交付決定額）

うち、令和6年度 21,040千円

実施期間：R6～R15年度



【管理運営】



■危機管理への対応(主なもの)

・鶴岡工業高等専門学校危機管理規程(H23年制定)

・常設・・・危機管理を総合的かつ計画的に推進するための組織 ⇒ **リスク管理室**

・危機事象発生時・・・危機事象に対処するための組織 ⇒ **危機対策本部**

→ 危機事象発生前の段階においても、メール・Teamsで情報共有を行い、事象発生に備えている。

・防災訓練の実施。感染症発生時の対応確認。

・危機管理に係る各種研修の実施(全教職員)

・コンプライアンス研修、ハラスメント防止研修、個人情報管理研修 etc. → Formsを用いたテストによる習熟度の確認、危機管理意識を醸成。



・情報セキュリティへの取り組み ⇒ **情報セキュリティ管理委員会**

・不審メールへの対応訓練、情報セキュリティ研修会の実施、メール誤送信対策(2段階確認システム)、USBメモリ等への要機密情報の保存禁止

・スクールロイヤーとの連携(R5年11月～)

・令和5年11月に**市内法律事務所とスクールロイヤー**契約を締結し、今年度も継続して諸問題に対する法的見地からの指導・助言、いじめ予防教育などの取組等を行っている。

■積極的な情報発信(主なもの)

- ・本校独自のプレスリリース(取材依頼(適宜))
- ・鶴岡高専メールマガジンの発信(月2回)
- ・ホームページレイアウトのリニューアル ★
- ・鶴岡高専ホームページ上で、学校案内や教育・研究情報を積極的に発信

感染予防対策情報や緊急連絡を発信

課外活動における学生表彰を積極的に発信

- ・X(旧Twitter)による学校行事や入試情報の発信
- ・学校紹介動画の作成 ★
- ・入試直前YouTubeライブ配信(みんなの高専チャンネル) ★
- ・受験者ホームページのリニューアル
- ・女子中学生向け学校案内冊子の作成(3月末発行予定)
- ・県内中学校を中心とした入試情報ダイレクトメールの配信
- ・高校進学塾へ校長・入試担当が訪問、本校を進学先の一つとして進路指導への活用を直接依頼
- ・各種公開講座・講演会、シンポジウム、イベントなどを開催

市民サロン、K-ARCシンポ、産業技術フォーラム、科学フェスタ etc.



★HPLレイアウトリニューアル

- ・全体的に見やすくなるよう文字の大きさと配置を調整
- ・スマホ画面に対応



★学校紹介動画



★YouTubeライブ配信

教職員の質的向上



NIT - Tsuruoka

■ 公募による多様な背景を持つ教員（定員）の採用

- ・ 他大学、民間企業経験者等を採用

R 6 : 採用 4 名 (R 5 : 採用 6 名、R 4 : 採用 4 名)

- ・ 女性教員の割合 約 1 2 % (5 8 名中 7 名)

(令和 6 年 3 月 1 日現在)

教員	校長		教授		准教授		講師		助教		特任教授		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
現員	1	—	16	1	23	1	2	2	10	3	—	—	52	7	59

■ 女性教員の割合を増やすための、女性教員限定公募（電気・電子コース）を実施。 (高専機構本部の特別措置) → R 6 採用決定 : 1 名

■ 事務系職員の人事交流等の推進

- ・ 事務職員の国立大学等(山形大学)との人事交流

R7年3月現在 交流者 6人

- ・ 事務職員の高専機構本部との人事交流

R 7 年3月現在 高専機構本部への出向 1人 (2年間)

(参考) 事務系職員（定員職員）の採用（R 7 ・ ・ 2 名、R 6 ・ ・ 1 名）（令和 7 年 4 月 1 日見込み）

■ 教職員の能力開発の取り組み（主なもの）

○ 教員

- ・ 高専機構本部主催の各種研修への参加
R6年度 延べ13名 (R5年度 延べ10名、R4年度 延べ9名)
- ・ F D (Faculty Development : 教員能力開発) 研修
本校独自で R7年1月22日に「F D 研修会」を実施 参加人数46名
- ・ その他令和6年度学校主催 セミナー、講演会等
 - ・ 鶴岡高専内科研費ワークショップ・科研費セミナー
 - ・ 自殺予防講演会（教職員向け）
 - ・ ハラスメント防止研修会（教職員向け）
 - ・ 情報セキュリティ講習会（教職員向け）
 - ・ いじめ防止研修会（教職員向け） 等

○ 事務系職員（事務職員、技術職員及び看護師）

- ・ 高専機構、国立大学協会、人事院主催等の各種研修へ参加
※ R6年度 延べ19名 (R5年度 延べ25名、R4年度 延べ19名)
- ・ 旭川高専との職員の短期相互派遣研修（派遣：R6年10月28日～11月1日、受入11月11日～15日）
令和6年度から、相互に職員を派遣・受入を行い、職員の視野の拡大を図り運営事務の情報交換、実習等を実施。
- ・ 事務職員及び技術職員メンター制度
メンティ(指導される者)及びメンター(指導する者)双方について、自身の能力向上を図るとともに、鶴岡高専の持続的な発展の原動力となる人材育成風土の醸成を図る。 ※ R6年度（新規採用職員）1名

校内コンビニエンスストアの導入(令和7年4月～)



NIT - Tsuruoka

～地域の皆様へ～

鶴岡高専にコンビニができました！

是非、ご利用ください。

●令和7年4月8日(火)正午OPEN

●オープン日以降の

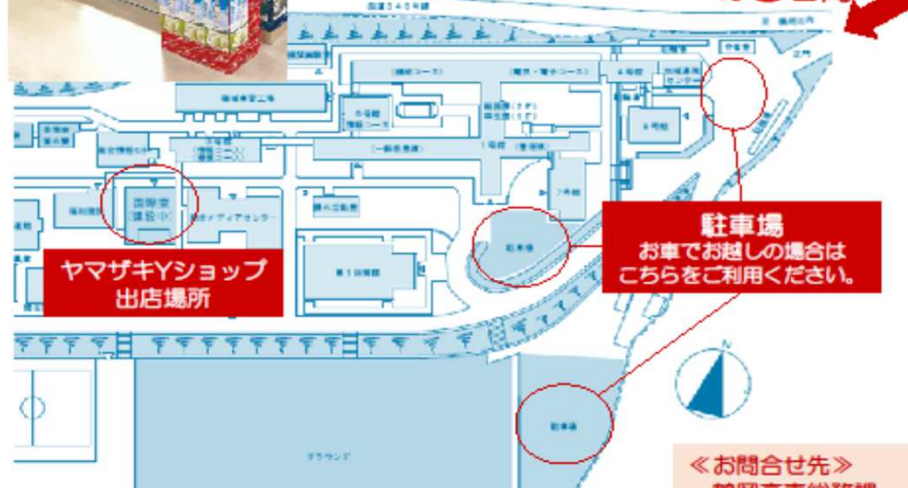
営業時間は、時から時まで
(土・日・祝日・学生の長期休み期間中は、店休日となります。)

- 現金のほかに電子マネーやキャッシュレス決済が可能です。
- パン、弁当、チルド商品、食品、菓子、ドリンク、生活用品、文房具などを販売



開店記念セール!!

4月8日(火)・9日(水)・10日(木)
の3日間



ヤマザキYショップ
出店場所

駐車場
お車でお越しの場合は
こちらをご利用ください。

《お問合せ先》
鶴岡高専総務課
電話 0235(25)9010

※コンビニに隣接する「学校食堂」も一般の方の利用が可能です。



資料 6

【専攻科関連事項について】

専攻科長 宍戸 道明



■ 養成する人材像

多様な価値観と広い視野を持ち、高度・多様化する先端技術とグローバル化に対応できる実践的で創造力豊かな開発型技術者

■ 達成すべき学修成果 （卒業認定方針：ディプロマ・ポリシーより抜粋）

- (1) 広い視野を持ち、多様な価値観を理解できる能力
- (2) 自ら考え計画し、能力を総合的に発揮して問題を解決できる能力
- (3) 専門分野に加えて基礎工学をしっかりと身につけた生産技術に関する幅広い対応力
- (4) 英語力を含めたコミュニケーション力

■ 志願者に求める人材像 （入学者受入方針：アドミッション・ポリシーより抜粋）

- (1) 科学技術への関心が高く、研究に対して意欲がある人
- (2) 発想に独自性があり、チャレンジ精神に富んだ人
- (3) 技術や科学の専門基礎力を有し、より高度で実践的な技術の修得を目指す人

■ 教育活動における役割と責務 （教育課程編成・実施方針：カリキュラム・ポリシーより抜粋／要約）

- ➤ 広い視野, 多様な価値観 ➤ 問題解決能力 ➤ 基礎工学の定着化と対応力 ➤ コミュニケーション力
- ➤ 人文, 社会科学系科目 ➤ 数学, 自然科学系科目 ➤ 専門科目

➡ **融合・複合型教育に重点を置く科目群編成**

融合・複合型教育に重点を置く科目群編成

総合技術論 (専攻科1年:必修)

- 15週／人 のオムニバス形式 (うち 外部講師4週)
- 特定分野に偏らない、最近の技術トレンドや仕組みを学修する
- 科学史・人間社会との関わりなど 幅広い教養を身につける

【講演テーマ(例)】

- 複合材料設計とハーモニゼーション理論
- 微生物利用技術
- 多自由度運動の計測技術
- 医薬品分析と生体検査技術
- アントレプレナーシップ論



水中ドローンの探索デモ

実践的デザイン工学実習 (専攻科1年:必修)

- 地域連携型教育 (公益性の観点による地域課題抽出と解決)
- 学科横断型教育 (チーム編成は、出身専門コース混成)
- 合宿型体験教育 (フィールドワーク主体、チームワーク醸成)

【エンジニアリング・デザイン】

社会ニーズを満たす人工物的事物を創造し管理するため、種々の学問・技術を統合し
必ずしも正解のない問題に取り組み、最適解を見つけ出してゆくこと

問題設定力、構想力、創造性、種々の学問・技術の統合化・应用能力、制約条件下で解を見出す能力、継続的に計画し実施する能力、コミュニケーション能力 など



プロポーザル(環境フェア2024)

(その他: 専攻科実験, 創造工学実習 など)

専攻科学研究

【専攻科学研究Ⅰ】

- 地域企業参加型(10社)
- 教員評価／来場者評価
- ポスターによるプレゼンテーション



【専攻科学研究Ⅱ】

- 学修総まとめ科目(学位申請)
- 英語スライドによるプレゼンテーション



【積極的な学会発表】

- 国内学会発表 12件
- 国際会議での発表 4件
(令和6年度実績)

継続的なカリキュラム見直しによる 新規科目創設

【学際融合研究】

科学者視点による研究分野の枠組みや特徴について理解し、新たな学際領域における研究シーズを創出／発展するための方法論を修得する科目

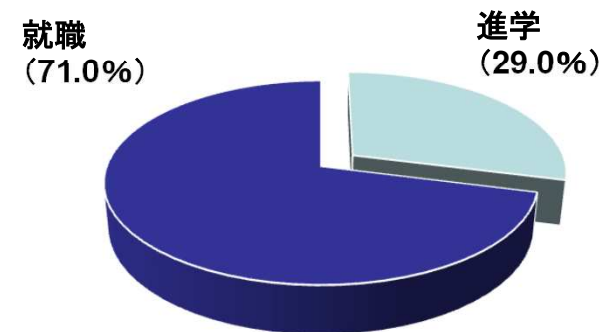
※多くの教員が専攻科教育に関わる仕組みづくりを検討中

出口側（専攻科修了）に関する分析



NIT - Tsuruoka

修了 年度	修了者数	学位(学士)		進学 者数 (名)	就職 者数 (名)	比率 (%)
		取得 者数	取得率 (%)			
H30	22	22	100	5	17	23:77
R1	18	18		4	14	22:78
R2	16	16		4	12	25:75
R3	24	24		10	14	42:58
R4	21	21		7	14	33:67
R5	16	16		4	12	25:75
R6	—	—		5	14	26:74

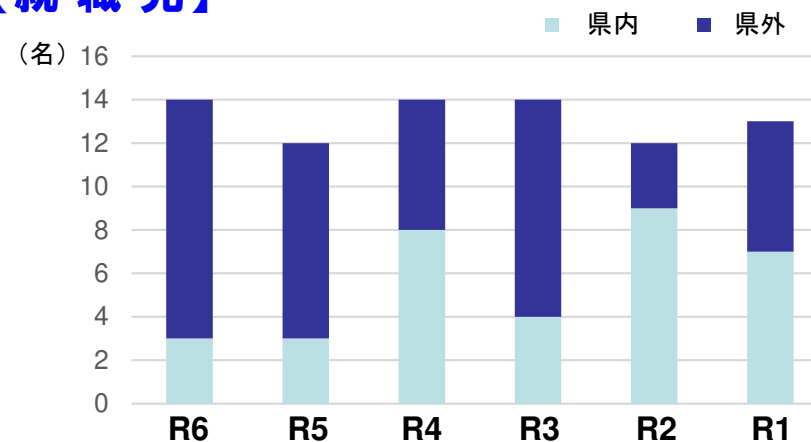


約3割が進学，7割が就職

【進学先】

	《推 薦》	《学 力》
R6	筑波大学 新潟大学	東京工業大学 埼玉大学 電気通信大学
R5	北海道大学 北陸先端科学技術大学院	豊橋技術科学大学 東京工業大学 奈良先端科学技術大学院
R4	長岡技術科学大学 情報セキュリティ大学院大学 筑波大学大学院 九州工業大学	長岡技術科学大学 埼玉大学
R3	東北大学 筑波大学／山形大学 奈良先端／北陸先端 豊橋技術科学大学	東北大学 埼玉大学 慶応義塾大学

【就職先】



- 3社が注目されている傾向有（県内）
選択に特段の傾向なし（県外）

入り口側（志願者募集）に関する分析



※括弧内は、女子学生の内数

NIT - Tsuruoka

入学年度	推薦入試				学力入試			入学者数	定員充足率	平均充足率
	定員	志願者数	合格者数	倍率	志願者数	合格者数	備考			
R1	16	14	14 (2)	0.88	3	3		16 (2)	1.00	1.19
5 (1)		16	16 (1)	1.00	7	4	辞退1	24 (2)	1.50	
1 (1)		16	16 (1)	1.00	14	5		21 (2)	1.31	
2 (0)		12	12 (1)	1.00	5	3 (1)		17 (2)	1.06	
1 (1)		12	12 (3)	1.00	9	7	辞退1	19 (4)	1.19	
		13	13 (2)	1.08	10	6 (1)	辞退1	18 (3)	1.13	
※本年度	R7	16	14 (3)	0.88	7	4		18 (3)	1.13	

※推薦-1

専攻科の活性化に向けた、能動的な志願者確保対策



① 学校長推薦の募集枠の変更

- 推薦入試における各コースの推薦枠を 12 ➡ 16名（4名／コース）に変更し募集を行った。

② 自己推薦型選抜入試の策定（次年度（R8年度）より施行予定）

- 各コースの推薦枠（4名／コース）から外れた席次上位学生に、専攻科受験の機会を提供する
- 本校における「他大学推薦の基準」を満たす学生が応募可能

③ 積極的な広報／情報提供

- クラス掲示板を活用し、専攻科進学意識づけを行った（左図）
- 同様の手法で、春期休業前に、「自己推薦型選抜」の周知ポスターを掲示した

➡ 専攻科研究指導が可能な教員の拡充化

① 特例適用指導教員

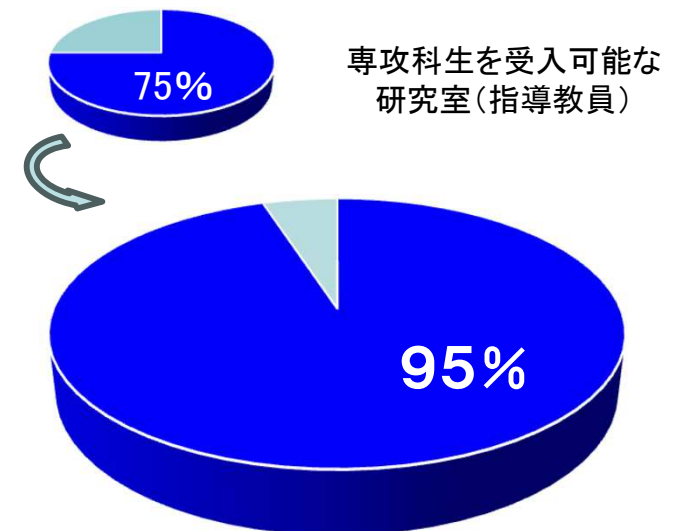
専攻科で学生を受け持ち、指導教員として学生指導を行うためには、その実績(資質や力量)を学位授与機構が審査し、「適」と判断されることで研究指導を行うことができる。学位(博士)や学術実績が必須。

② 指導補助教員

特例適用指導教員の所管の元で、指示を受け専攻科で学生を受け持ち、指導補助教員として学生指導を行うことができる。学位授与機構への届け出が必須。

～R6年度		基盤G	Mコース	Eコース	Iコース	Bコース
総員			10	10	8	13
年齢条件除外			1	—	—	1
嘱託教員			1	—	—	—
対象教員		2	8	10	8	12
指導教員		1	4	6	4	7
指導補助教員		1	2	2	2	3
非該当教員		0	2	2	2	2

R7年度～		基盤G	Mコース	Eコース	Iコース	Bコース
新規	届出(指導補助教員)	—	1	2	2	1
変更	単独申請(指導教員)	1	(1)	—	—	2
	区分変更	—	—	—	—	2
	所属変更	1	—	—	—	—
非該当教員			1			1



➡ 殆どの教員(95%)が専攻科生を受入可能な体制とした

➡ 専攻科研究指導が可能な教員の拡充化

【参考資料】

各職制別 特例認定指導教員一覧（R6年度の体制）

※括弧内は女性教員の内数を示す

教員数計	区 分		教 員 数		うち学修総まとめ科目 担当教員数		※ 備 考
	指導教員	教 授	13 (1)	人	10 (1)	人	
		准教授	12 (1)	人	4	人	
		講 師	0	人	0	人	
		助 教	0	人	0	人	
		計	25 (2)	人	14 (1)	人	
	指導 補助教員	教 授	1	人	0	人	
		准教授	3	人	1	人	
		講 師	2 (1)	人	1	人	
		助 教	7 (2)	人	1	人	
計		13 (3)	人	3	人		
合 計		38 (5)	人	17 (1)	人		

非該当教員	教 授	0	人
	准教授	1	人
	講 師	0	人
	助 教	1	人
	計	2	人

- 21名の教員が専攻科生を受入可能な状況
- 特定の研究室に学生が集中する傾向有

専攻科の総括（今後の課題と展望）



NIT - Tsuruoka

■ 専攻科の充実化とさらなる高度化に向けて

- 充実化を実現するための経営資源の有機的活用
- 社会のトレンドに整合する教育体制の整備

アントレプレナーシップ
グローバル
イノベーション

■ 修了に向けて（ディプロマ・ポリシーへの整合）

価値観

組織

- 研究の充実をねらう競争的資金（専攻科生向け）獲得の制度設計
- 専攻科－大学院接続の整備（取得単位の相互認定，研究連携，その他）
- 修了生を対象としたサーベランス（『よりよい専攻科に変わるために』の満足度調査）

■ 受入側について（アドミッション・ポリシーへの整合）

戦略

スタイル

- **志願者獲得**，状況分析，さらなる入試制度の改善
（女子枠，入試科目（数学）の外部試験導入，その他）
- 本科生に対する広報（キャリアプラン，差別的優位性，その他）
- 本科改組にともなうカリキュラム整備

■ 教育コンテンツについて（カリキュラム・ポリシーへの整合）

スキル

人材

システム

- 外部人材（有識者，OB／OG，）の積極的登用
- 「デマンド・アワー（仮）」・・・外部（企業，自治体他）との接点，高柔軟度の自由闊達な時間
- 教員の専攻科参画意識の啓発（選択科目 1教科／名）
- 内陸地方の拠点「鶴岡高専サテライト」，セミ・クォーター制導入（サテライトでの授業）
- 他高等教育機関との連携講座（STEAM教育を意識した共同／協働での学びの機会）
- 外部評価を見据えた透明性の高いエビデンス整備



資料 7

【研究活動・地域貢献関連事項について】

地域連携センター長 内山 潔

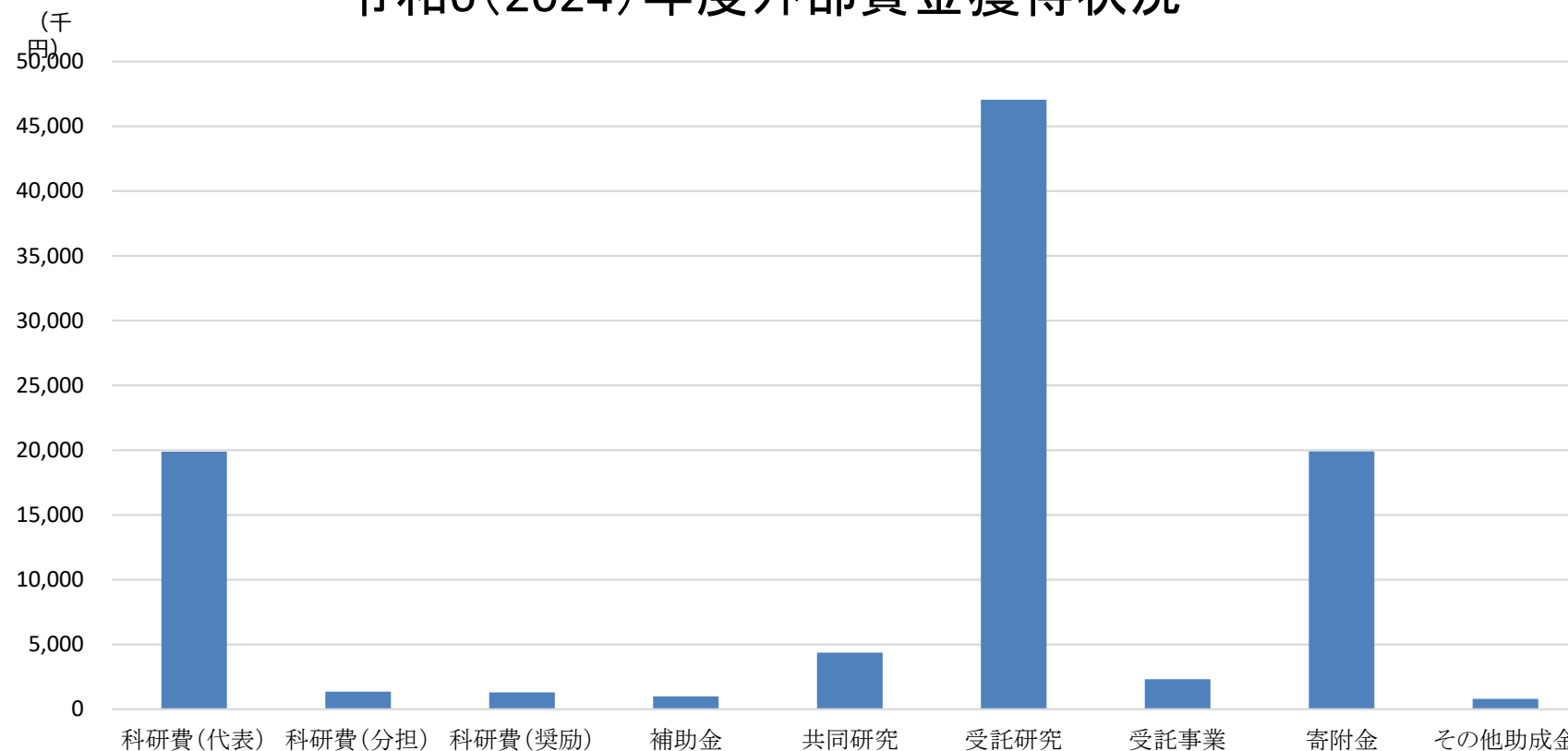


Ⅱ－1 外部資金



NIT -Tsuruoka

令和6(2024)年度外部資金獲得状況



(千円)																			合計
科研費(代表)		科研費(分担)		科研費(奨励)		補助金		共同研究		受託研究		受託事業		寄附金		その他助成金			
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額		
合計	12	19,890	6	1,365	3	1,310	2	1,000	15	4,375	12	47,053	2	2,329	24	19,913	2	810	98,045

※ 金額は直接経費+間接経費の計とする。

Ⅱ-2 研究活動



NIT -Tsuruoka

◆令和6年度実施 本校主催のイベント一覧◆

イベント名	開催日	開催場所	概要	備考
市民サロン①	7/31 (水)	庄内地域産業振興センター	市民向け講座	県内外部講師1名 内部講師1名
外部資金獲得研修会 (科研費セミナー)	8/2 (金)	本校合同講義室		県外外部講師1名
産業技術フォーラム	9/13 (金)	庄内地域産業振興センター	専門分野の最先端情報を紹介・ 説明する企業・市民向け講座	県外外部講師1名
市民サロン②	9/18 (水)	庄内地域産業振興センター	市民向け講座	県内外部講師1名 内部講師1名
産学連携セミナー	11/6 (水)	本校8号館	企業等との情報交換を通して、 新規事業創出、技術革新など の機会提供を目指す	県外外部講師2名 県内外部講師1名
K-ARCシンポジウム	11/29 (金)	鶴岡市 先端研究産業支援センター	K-ARCに関する研究成果を 発表するシンポジウム	基調講演: 県外講師1名 招待講演: 県内講師1名 一般講演: 県外講師1名 本校教員1名 研究紹介: 本校教員1名
-地域企業参加型- 専攻科生研究発表会	1/17 (金)	本校8号館	技術振興会企業を招いての 専攻科1年生ポスター発表会	出展企業10社

Ⅱ-2 研究活動



NIT -Tsuruoka

◆令和6年度 本校参加イベント(外部主催)一覧◆

イベント名	開催日	開催場所	概要	出展者・参加者
新大山コミセン 落成記念イベント	9/28(土)	鶴岡市大山 コミュニティセンター	小学生向け体験イベント	本校教員1名
つるおか大産業まつり	10/19(土)～ 10/20(日)	鶴岡市小真木原公園	研究成果・技術・交流展示会	本校教員1名
おおた研究・開発フェア	10/10(木)～ 10/11(金)	コングレスクエア羽田	研究成果・技術・交流展示会	本校教員1名
鶴岡サイエンスパークまつり	11/2(土)	鶴岡サイエンスパーク	小中高生向けイベント	本校教員4名
ビジネスマッチ東北	11/14(木)	夢メッセみやぎ	研究成果・技術・交流展示会	本校教員1名
ものづくり企業支援講座	12/19(木)	本校 総合メディアセンター	技術振興会会員向け 実習講座	本校教員2名

Ⅱ-2 研究活動

科研費セミナーを開催

- 科学研究費(科研費)のさらなる獲得につなげようと、2024年8月2日(金)に、「科研費セミナー」を開催しました。
- 京都大学医生物学研究所 教授 の新宅 博文 氏を講師にお招きし、科研費採択状況の分析や申請書の書き方について、これまでの採択経験を踏まえてご講演いただきました。
- 当日は教職員46名が参加し、講演後には活発な質疑応答が交わされるなど、大変有意義なものとなりました。



京都大学 新宅 博文 氏



科研費セミナーの様子

Ⅱ-2 研究活動

GEAR5.0 での取り組み

- ・ GEAR5.0は、企業、自治体及び大学等との連携体制のもと、未来技術の社会実装を通じ、「人財」を育成する取組みです。
- ・ GEAR5.0未来技術の社会実装教育の高度化の事業において、「**マテリアル分野**」「**防災・減災(防疫)分野**」「**防災・減災(エネルギー)分野**」の3つのプロジェクトに参画しています。

【マテリアル分野】

ポリマーブラシ構造を付与したゴム材料、イオンブラシによるウイルス不活性化コーティング技術の開発

【防災・減災(防疫)分野】

感染性ウイルス等の防御・迅速診断法の構築

【防災・減災(エネルギー)分野】

次世代燃料電池用触媒の開発



Ⅱ-2 研究活動



JST 大学発新産業創出基金 「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」
【みちのくアカデミア発 スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)】

NIT -Tsuruoka

本校は、令和6年2月に東北地区及び新潟県の大学等を共同機関とする「みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)」に参画し、本プログラムに採択されました。



第1回 講師:丹 省一 氏 (本校名誉教授)
演題:「SHONAI 20-50 —SDGsと庄内の発展に向けて—」



今年度より、研究成果を活かした起業を目指す活動に本格的に取り組んでおり、鶴岡高専発の起業化の実現に向け、「MASP-地域連携講演会」を全2回開催し、多くの教職員が参加しました。



第2回 講師:小林 直哉氏
(株式会社NKエネルギーフロンティア 代表取締役 社長)
演題:「起業して実感したこと ～成功例・失敗例～」



「ロボット体験会」に講師を派遣

2024年10月26日(土)、鶴岡市中央児童館主催のイベント「ロボット体験会」において、本校 情報コース 佐藤淳教授と 一条洋和 技術専門職員が講師を担当し、小中学生を対象にロボット操作やプログラミング操作を指導しました。

小中学校等と連携したICT教育(出前講座)は、文部科学省が推し進める「STEAM教育」の一環として位置付けられる取り組みです。子供達にロボットに触れることを楽しんでもらうだけでなく、地域にICTを学べる場・学校(高専)があることをアピールすることができました。



Ⅱ－3 地域連携活動



NIT - Tsuruoka

第60回産業技術フォーラム

2024年9月13日（金）、庄内産業振興センターにおいて、三菱マテリアル株式会社 ものづくり・R&D戦略部インキュベーションセンター長 西澤 薫 氏を講師としてお招きし、『日本の「製造業」が再び世界で輝くために 今、何をすべきか ―VUCAの時代に世界で勝ち抜くために―』と題し、ご講演いただきました。

自社製品や技術についてご紹介いただいた後、日本の製造業を取り巻く環境の変化について、世界主要各国のデータを交えてご説明いただきました。

さらに、「職場マネジメント」や「体質強化」についてお話いただきました。今回のお話は、産業界に限らず、どのような職場でも活用できるものであり、職場マネジメントに対する意識や理解を深める貴重な機会となりました。



西澤 薫 氏

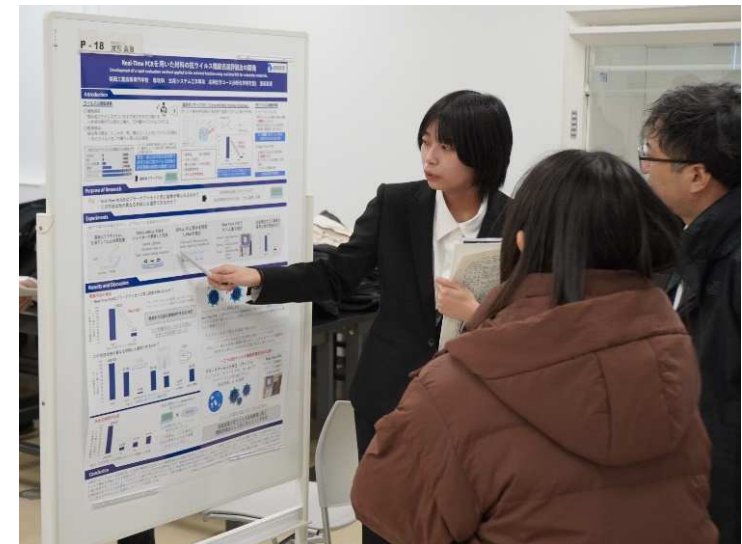


Ⅱ－３ 地域連携活動

「**一地域企業参加型一専攻科生研究発表会**」は、地域企業の皆様に専攻科の研究発表を聴講いただき、本校学生と地域企業の方々が直接意見を交換する場として、2025年1月17日(金)に本校8号館にて開催しました。

研究発表では、学生がポスターセッション形式で自身の研究成果を発表し、教員や企業の方からの質問に丁寧に答えました。

さらに、企業様より自社の展示ブースを設けていただき、学生に自社製品や事業についてご説明いただきました。今年度は、例年の2倍以上となる【10社】のブースを設け、ブースの訪問時間を大きく増やしたことにより、学生と企業の皆様がより中身のある情報交換を行うことができました。



Ⅱ－３ 地域連携活動



NIT -Tsuruoka

ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社(SCK)による特別授業実施(R7.1.29)

「電子工学」電気・電子コース3年

講師：同社 プロセス技術3部

統括部長 竹田 雅晴 氏

昨年度に引き続き、デバイス製造にかかわるお話しをしていただきました。竹田氏は本校の卒業生で、今回聴講した学生の先輩にあたります。

半導体関連分野が世界的に注目されている中、第一線で活躍する地元企業のエンジニアからこのような現場のお話を聞くことができる機会を設けることは、卒業生の地元定着にも繋がり、今後より重要性を増すと考えます。



竹田 雅晴 氏



鶴岡工業高等専門学校運営協議会規程

制 定 平成14年 2月 6日

最終改正 令和 7 年 1月 8日

（設置）

第1条 鶴岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）に鶴岡工業高等専門学校運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（目的）

第2条 協議会は、次の事項について点検・評価をし、助言、指導を与える。

- 一 教育の内部質保証システム（三つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー））に関する項目、及び校内PDCAサイクルに関する項目を含む）に関すること
- 二 教育組織及び教員・教育支援者等に関すること
- 三 学習環境及び学生支援等に関すること
- 四 財務基盤及び管理運営に関すること
- 五 準学士課程の教育課程・教育方法に関すること
- 六 準学士課程の学生の受入れに関すること
- 七 準学士課程の学習・教育の成果に関すること
- 八 専攻科課程の教育活動の状況に関すること
- 九 その他、正副委員長が必要と認める事項

（組織）

第3条 協議会は、次に掲げる者のうちから、校長が委嘱した委員及び校長をもって組織する。

- 一 本校の所在する地域の関係者
- 二 大学その他の教育研究機関の職員
- 三 その他高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者

（正副委員長）

第4条 協議会に正副委員長を置き、委員長は委員の互選により選出し、副委員長は校長をもって充てる。

2 正副委員長は、共同して協議会を掌理し会議等を招集し、議長となる。

（任期）

第5条 第3条各号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

（オブザーバ）

第6条 本校副校長（総務・教務担当）及び事務部長は、オブザーバとして会議等に出席することができる。

（幹事）

第7条 協議会に幹事を置き、総務課長をもって充てる。

（事務）

第8条 協議会の事務は、総務課において処理する。

（改正手続）

第9条 この規程の改正は、校長の発議により、運営会議の議を経て校長が定める。

（雑則）

第10条 この規程に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成14年2月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月3日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年5月29日から施行する。

附 則

この規程は、令和7年1月8日から施行する。

令和 6 年度 鶴岡工業高等専門学校運営協議会報告書

令和 7 年 3 月

独立行政法人国立高等専門学校機構

鶴岡工業高等専門学校

〒997-8511 山形県鶴岡市井岡字沢田 104

TEL 0235(25)9453（総務課企画・連携係）

FAX 0235(24)1840（総務課共通）

URL <https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/>